

土木技術者女性の会

輪人

2012年度总会特别号

目次

01	巻頭言 30 周年記念行事開催までの道のり 会長 桑野 玲子	17	参加者の感想
03	土木技術者女性の会 創立 30 周年記念行事 どぼく未来フォーラム	17	“どぼじょ＝素敵女子”を確信した日 雨宮 美子(関東地区)
05	応援メッセージ 中村 哲さんからフォーラムへのメッセージ	17	総会に参加して 塚本 雅美(中部地区)
06	パネルディスカッション	18	みらいフォーラム参加の感想 塩津 絵理(関東地区)
08	シンボル・ロゴが決定しました！	19	フォーラム、総会に参加して 佐藤 希絵(関東地区)
10	シンボル・ロゴの決定にあたって 企画 WG リーダー 牛山 育子	20	私と「土木技術者女性の会」 片岡 沙都紀(北海道地区)
11	どぼく未来宣言	21	うーん、女性って美しい！！ 西倉 優子(関西地区)
12	第 31 回 総会報告	22	♪みんなの声♪ ☆参加したみなさんから、たくさんのコメントを いただきました☆
13	パネルディスカッション 〈 創立 30 周年記念総会 〉 「土木技術者女性の会・創成期秘話」	25	30 周年記念総会 WG からのメッセージ

31 **当日展示パネル** 土木技術者女性の会／会の目的／会の歩み／坑内労働規制緩和に向けた活動／
現場見学会・勉強会／女子中高生夏の学校／会員の声

39 **土木技術者女性の会 関連記事** 朝日新聞 2012.09.07「リケジョ」人生の方程式／建設通信新聞
2012.06.26 土木技術者女性の会 創立 30 周年で未来フォーラム／建設業界 2012 年 8 月号 ダイバーシティ・マ
ネジメント～組織戦略としての取り組みを～／産学官連携ジャーナル 2012 年 8 月号 土木技術者女性の会 30 周
年、働きやすい環境づくり、地位向上の活動も／コンクリートテクノ 2012 年 9 月号 「どぼく未来フォーラム」を開催～土
木技術者女性の会が創立 30 周年／土木施工 2012 年 9 月号 創立 30 周年記念「どぼく未来フォーラム」を開催／
土木学会誌 2012 年 8 月号 この人に聞く 94(最終回)、岩熊まきさんに聞きました

巻頭言

30 周年記念行事開催までの道のり

会長 桑野 玲子

私が会長を務めるようになったのは 2009 年のことです。それからまもなくして第 30 回記念総会のことが話題になりはじめました。節目の総会をどのような形で開催するか様々な考え方がありましたが、どぼく未来フォーラムと称した記念行事を開催し、会員外の人にも対象にした大きなイベントを目指すことになり、2010 年から須田さんが率いるタスクチームが中心となって準備を開始しました。プレイベントとして、各所でチラシや「Civil Engineer への扉」を配り、会員の顔いっぱいポスターを展示して広報に努めました。私自身も、新聞・雑誌のインタビューや、寄稿などを“これもお役目”と思って積極的に引き受けました。それなりに準備が進んでいるところに 2011 年 3 月に大地震に見舞われ、どのように対処するか苦慮しましたが、幸い北海道地区から関東地区のピンチヒッターとして急遽総会を開いてくださるという配慮をいただき、記念イベントは一年延期して、改めて 2012 年 6 月に創立 30 周年記念行事とすることになりました。

だいぶ前に TV でアフガニスタンにおける中村哲さんの活動を知りました。生きてくこと自体が厳しい環境では、土木は人の命を直接救える力を持っていることにそこで改めて気付きました。土木の力で人々の生活が整い、衣食足りると治安もよくなり心も豊かになるという連鎖に、土木の本質的な使命を見る思いがしました。2009 年に新聞のインタビューでそのことを引き合いに出したのがきっかけで、“命を守るどぼくの未来”というキーワードがフォーラムでもメインテーマとなりました。

フォーラムの広報も兼ねて実施したシンボルロゴの制定では、牛山さんを中心とする企画 WG が大活躍しました。私を含めて大半の会員は、そもそもシンボルマークとは何をさすかさえあまりわかってない状態でしたが、牛山さんの仕事上の経験が、一般への大々的な公募、プロによる審査、著作権のチェックという、素人には想像もつかなような作業を可能にしました。プロのデザイナーを含むたくさんの方に応募いただき、また審査員の先生方に数時間にわたって真剣に審査していただいた結果、これからの会の成長を象徴するようなシンボルマークが選ばれました。将来にわたって長い間大事に使っていきたいと思います。

総会まで 1 か月を切るあたりから、準備の作業が徐々に慌ただしくなってきました。タスクチームのメンバーは、当然ながら皆本務で忙しいうえ働く場所もバラバラなので、足並み揃えて準備に励むわけにはいきません。相互の連携がうまく取れずにチグハグになることもありましたが、現場仕込みの須田さんー石塚さんラインのマネジメントの甲斐あって、急速に形が整ってきました。とはいっても、直前の 1 週間は、現場(東大生研)は会場設営や配布物の準備等でてんやわんや・・・季節外れの台風まで来る始末です。2 人の秘書さんに深夜までフル稼働してもらい、メールや電話が嵐のように飛び交い、どうにか無事に当日を迎えることができました。

皆さんのおかげで形はできてきましたが、私の責任範囲である肝心のフォーラムの筋書きがなかなか決まりませんでした。日々の忙しさに負けて、考えるのを後回しにしていたというのが本当のところ。いいかげん考えあぐねていた時に、かねてからお願いしていた中村哲さんからのメッセージが届きました。そのメッセージは、真摯で心をつつものであり、それに背中を押されるようにどぼく未来宣言を起草し、パネルディスカッションの組立てをイメージしました。30 年の節目に会長を引き受けてしまって私には荷が重すぎると泣き言を言いたくなった時もありましたが、土木の使命や会の役割を改めてじっくり考える機会となり、やった甲斐があったと充実感を感じています。

土木技術者は、社会基盤や社会の仕組みを作りそれを維持する事を仕事としていますが、経済や効率を優先するあまりにそれを使う人間の事を忘れてはいけない、“土木は人のためなり”ということをフォーラムを通じて再認識しました。人がいる限り、人の集まる社会がある限りより良い未来を模索すべきなのでしょう。土木技術者女性の会も、会員ひとりひとりの土木との関わり方が、多種多様なロールモデルとして、相互に、そして次世代への励ましとなっています。30年継続するうちにいつのまにか大きな力となりました。これまで会の活動を支えて下さった先輩方や会員の皆様に心から感謝いたします。そして、未来に向かって土木技術者女性の会はもっと成長できると確信し、また新たな一歩を踏み出したいと思います。

2012年12月



土木技術者女性の会 創立 30 周年記念行事



土木技術者女性の会は、土木の仕事にやりがいと誇りを感じる女性の土木技術者・研究者・学生の集まりです。このたび当会は創立 30 周年を迎えました。30 年のうちに社会情勢も変化し、創立当初ほど女性土木技術者が稀少な存在ではなくなりましたが、まだまだ土木関連学会に占める女性会員比率は 2～3%程度であり、さらなる女性の進出が望まれます。一方、昨年は、安心・安全な社会基盤の構築、という土木の本質的な使命が揺るぎかねない東日本大震災がありました。

これを受け、当会は創立 30 周年記念行事の一環として、“いのちを守る土木の未来”をテーマとし、土木の原点を再考し若い世代に土木の意義を伝えることを目的とした“どぼく未来フォーラム”を開催しました。

主催：土木技術者女性の会

共催：東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター（ICUS）

後援：公益社団法人 土木学会、公益社団法人 地盤工学会、国土交通省

日時：2012 年 6 月 22 日（金）13:30～17:00（受付開始 13:00）

場所：東京大学駒場リサーチキャンパス コンベンションホール

参加者：約 220 名

当日は、200 名を超える人が集まり、桑野会長の開会宣言で幕が開きました。

まず、公募していた会のシンボル・ロゴの審査結果発表と表彰を行いました。厳正な審査の結果、応募総数 463 点の中から、南部真有香さんの作品が最優秀賞に選ばれました(p.8)。

基調講演では、「誰もが参加できる社会を目指して」と題し、浅川智恵子氏（日本アイ・ビー・エム(株)、IBM フェロー）にお話しいただきました。浅川氏は、小学生の頃のプールでの怪我がもととなり、中学の時に視覚障害となりました。当時、点訳されている書物は少なく、またタイプライターも重くうるさく、勉強する環境は劣悪だったといいます。それらの経験が今の仕事に活かされご活躍されています。自身が開発した音声 WEB ブラウザなどを紹介し、障がい者が IT 技術へアクセスすることがアクセシビリティの向上につながっていると講演しました。また、コンピュータエンジニアのバービーが発売されたり、漫画で『数学ガール』や『宇宙女子』が売られていたり理系女性へのイメージの変化についてや、日本の超高齢化社会の到来を世界のロールモデルと称し、シニアクラウド“Mosaic”を活用した元気高齢者の未来の就労モデルとして、スキルと運動能力を情報技術がもたらす社会参加のループに組み込み、正のスパ

＜プログラム＞

13:00……………開場

13:30-13:45……開会宣言

シンボル・ロゴ最優秀作品 発表・表彰

13:45-14:30……基調講演「誰もが参加できる社会を目指して」

浅川智恵子さん（日本アイ・ビー・エム株式会社、IBM フェロー）

（休憩）

14:50-16:50……どぼく未来パネルディスカッション

「いのちを守る土木の未来」—土木の原点を考える—

○浅川智恵子さん（日本アイ・ビー・エム株式会社、IBM フェロー）

○山本 卓朗さん（第99 代土木学会会長、鉄建建設株式会社特別顧問）

○木村 亮 さん（京都大学教授、NPO 法人道普請理事長）

（司会）桑野 玲子（土木技術者女性の会会長、東京大学准教授）

16:50-16:55……どぼく未来宣言 閉会



基調講演 パネリスト

あさかわ ちえこ
浅川 智恵子さん (日本アイ・ビー・エム株式会社、IBM フェロー)

演題：『誰もが参加できる社会を目指して』

アクセシビリティという言葉は1970年代に「建物へのアクセス」を示す言葉として誕生しました。その後、1990年代以降は「情報技術へのアクセス」を示す語へと生まれ変わりました。さらに時代は進んで全ての人がスマートフォンやソーシャルネットワークによってつながるようになった今、社会参加を促進するための技術、つまり「社会へのアクセス」が注目されるようになってきています。今後では障がい者・高齢者を含めた全ての人が参加できる社会の実現に向けて、必要となる技術について考えます。



【プロフィール】
工学博士
1985年 日本アイ・ビー・エム(株)入社。
以来、同社東京基礎研究所で情報アクセシビリティ実現のための研究を主として実施。
1999年 厚生労働大臣賞。
2003年 日経フーアム・オブ・ザ・イヤー 2004 総合2位。
米国 WITI (Women in Technology International) 殿堂入り。
2004年 日経 BP 社「日本インベーター大賞」優秀賞。
2009年 日本人女性で初めて IBM 技術者の最高職位である IBM フェローに就任。
2010年 女性エンジニア協会 (アメリカ合衆国) 「SWE アチーブメント賞」。
2011年 Anita Borg Institute 「Women of Vision 賞」
文部科学大臣表彰 (科学技術賞 開発部門)

応援メッセージ

なかむら ちづ
中村 哲さん (医師、ベシャワール会)



【プロフィール】
1984年 バキスタンのベシャワール・ミッション病院ハンセン病棟に赴任。
1986年 バキスタン国内のアフガン難民への診療を本格的に開始し、更に、アフガン国内にも活動拠点を広げる。
1998年 恒久的な基地病院として PMS (ベシャワール会医療サービス) 病院をベシャワールに建設。
2000年 大千ばつに見舞われたアフガニスタンの村々で水源地保護事業を開始し、飲料用井戸約 1600 本と直径約 5 m の灌漑用井戸 13 本を掘削、カレース (伝統的な地下水路) 38 カ所を修復。
2001年 「アフガニのちの基金」を設立。
空爆下、アフガニスタン国内避難民への緊急食糧配給を実施し、2002年2月までに 15 万人に配給。
2010年 アフガニスタン東部で灌漑用水路建設 (全長約 25.5 km) を完成。
2011年 土木学会会員に。
現在は、水利事業を含めた総合的農村復興事業「緑の大地計画」を推進中。

パネリスト

やまもと たくろう
山本 卓朗さん (第 99 代土木学会会長、鉄建建設株式会社 特別顧問)

話題提供：『いのちと豊かさを守る土木へ』-土木の原点と未来を考える-



【プロフィール】
1964年 東京大学工学部 土木工学科 卒業。日本国有鉄道入社。
1987年 東日本旅客鉄道株式会社入社。仙台工事事務所所長。
1994年 同 常務取締役 開発事業本部長。
2000年 東京国駅ビル開発株式会社 代表取締役社長。
2002年 鉄建建設株式会社 代表取締役社長。
2004年 代表取締役会長。
2008年 同 特別顧問。
2011年 土木学会 第 99 代会長 (現在に至る)。

パネリスト

きむら てること
木村 亮さん (京都大学教授、NPO 法人道普請人 理事長)

話題提供：『自分たちの道は自分たちで直せると意識を広げたい』



【プロフィール】
1985年 京都大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 修士。
京都大学 工学部 交通土木工学科 助手。
1993年 京都大学博士 (工学)。
「水平力を受ける群杭の挙動に関する基礎的研究」
1994年 京都大学 工学部 交通土木工学科 助教授。
2003年 地盤工学会 論文賞。
2005年 土木学会 国際活動奨励賞。
2006年 京都大学 国際融合創造センター 教授。土木学会 論文賞。
2009年 地盤工学会 技術開発賞。
2010年 京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 (現在に至る)。

パネルディスカッション司会進行



桑野 玲子
(土木技術者女性の会会長、東京大学准教授)

イラルになるような考え方を示しました。また、実社会と情報社会の境がなくなりつつあることに触れ、実社会にさまざまなセンサーが設置されるなど、土木の都市計画とも密にリンクしていると話しました。

続いて、桑野会長が司会を務め、浅川氏、山本卓朗氏(第99代土木学会会長、鉄建建設(株)特別顧問)、木村亮氏(京都大学教授、NPO 法人道普請人 理事長)をパネリストに迎え、“いのちを守る土木の未来”をテーマにパネルディスカッションを行いました。

話題提供の初めに、アフガニスタンで用水路建設に携わった日本人医師・中村哲氏からの応援メッセージが紹介されました。今は「自然と人間との共存」が最大の課題であり、いのちの尊さを直観し、次世代への大きな力となるよう願っている、と会への期待が述べられました。山本氏はバブル経済以降、土木の功罪が顕在化し、土木界と市民との間にズレが生じたと指摘。特に東日本大震災以降、科学技術に対する信頼性が揺らぐ中、社会安全システムの再構築の必要性を訴えました。土木は本来、総合性を有しており、知恵を広げることで未来を開いて欲しいと会場の参加者に呼びかけました(p.5)。木村氏は、世界13か国で進めているNPO 道普請人の活動を紹介し、機械に頼らず住民が自ら土のうによる道路改良をすることで、住民の内発力の発揮やコミュニティ形成を促すことにつながっている、と話しました。

桑野会長からは、創立1983年当時約30名だった会員が現在は約180名となり、多種多様な人材こそが当会の財産になっていると述べました。また、5つの活動目的のうち、当初、「土木界で働く女性技術者同士のはげましあい」「土木界で働く女性技術者の知識向上」を中心に活動し、最近では社会的な要請もあり、「女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り」「女性土木技術者の社会的評価の向上」「土木技術者をめざす女性へのアドバイス」についての取組みも積極的に行っており、今後も継続して取り組んでいきたい、との説明がありました。パネルディスカッションの後半は、会場も参加して土木の使命および未来について討議しました。

最後に、今後の会の展望として、どぼく未来宣言を採択し、桑野会長と会場が一体となって読み上げました(p11)。

中村哲さんからのフォーラムへのメッセージ

中村哲さん(医師、ペシャワール会)に代わりまして、桑野会長が代読しました。

「いのちを守る土木の未来」というテーマでフォーラムが開催されるとお聞きしました。小生は土木専門家ではなく、一介の医師に過ぎません。しかし、現地アフガニスタンの水利施設建設をライフワークとする者として、このテーマの切実さを理解しているつもりです。

私たちPMS(平和医療団・日本)は、医療団体ではありますが、2000年夏以来、現地で顕在化した大干ばつに遭遇し、「100の診療所より一本の用水路」を合言葉に、水利事業を精力的に進めてきました。大きく報道されませんでした。政治や戦争の報道の陰に隠れ、アフガン農村の惨状は目を覆うものがあったのです。

当時WHO(世界保健機関)は500万人が飢餓線上、100万人が餓死線上と、警鐘を鳴らしましたが、政治上の理由から大きく取り上げられませんでした。実は2000万人と言われるアフガン国民の大半が自給自足の農民であり、かつては100%近い食料自給率を誇っていました。乾燥化の過程は現在もなお進行しており、最近では自給率が60%以下と報告されています。

これは恐るべき事態で、その割合だけ農民たちの生存する空間が失われたこととなります。診療所周辺でも次々と村々が消えていきました。当然、食糧不足で栄養失調になり、ささいな下痢症などの腸管感染症でたくさんの子供たちが命を落としてゆきました。この事態を前に医療は無力であり、薬で餓えや渇きを救うことはできません。そこで、日本側のペシャワール会と協力し、組織上げて干ばつ対策を最大の活動とすに至りました。

この間にも政情混乱と外国軍の介入が続き、治安悪化が急速に拡大しました。それでも、干ばつでたたき出された農民たちが大都市にあふれ、混乱に拍車をかけている現実は伝わらなかったのです。少なくとも初めの頃、アフガン復興が話題になった時でさえ、大きな問題としては扱われなかったと思います。2002年、PMSは「緑の大地計画」を打ち上げ、東部アフガンの穀倉地帯の復活と沙漠化による廃村の防止を目指しました。

その最大の事業として25kmの用水路建設を8年がかりで行い、同水路流域3000ヘクタールの農地を回復、約15万人の帰農を促すに至りました。この経緯の中で、問題が全世界的に進行する温暖化にあることを知りました。即ち、巨大な貯水槽としての役割をはたしてきた高山の白雪(はくせつ)が初夏に急激に解けて洪水を頻発させ、雪線(せっせん)の急速な上昇で湧水を引き起こしていたのです。これまで曲がりなりにも機能してきた取水技術が気候変化に追いつかなくなり、古い水路が涸れて農地を潤せなくなっていたのです。

取水技術の改良がアフガン農村の死命を制すると確信した私たちは、苦心の末日本で完成されていた水利技術を大幅に取り入れ、各地に安定灌漑を実現し、2012年現在、計14,000ヘクタールで60万人の農民の生活を保障するに至りました。

とくに心がけたのは、地元民が自力で保全できる水利施設でなければならぬということです。コンクリートを駆使した近代的な工法は、財政的にも技術的にも現地で不可能でした。近代工法が悪いというわけではありません。現地にあった適正技術という点で、江戸時代に完成した日本の伝統技術が優れており、私たちは大幅にこれを取り入れ、大きな恵みをもたらすことになりました。分けても重要な取水技術・斜め堰が大活躍しました。恐らく日本の昔、飢餓と飢饉が日常であった時代、文字通り必死の努力で建設されたものに違いありません。

この事業を通じて知ったのは、日本の治水思想が自然を屈服しようと力づくの工事をしなかったということです。それだけの物量や技術が投入できなかったといえればそれまでですが、数百年前に確立された治水・水利技術の底流を支えていたのは、「自然との同居」という考えです。彼らは自然に逆らわず、いのちを見据え、人為と自然の危うい接点を謙虚に見つめていたとしか思えません。

医学を含め、今日私たちに突きつけられている最大の課題は、「自然と人間の共存」だと思います。私たちは自然を操作し、人の意に適うよう努力してきました。そして、近代的技術が長足の進歩を遂げた今日、ややもすれば、科学技術が万能で、人間の至福を約束するような錯覚に陥りがちではなかったでしょうか。また自然を無限大に搾取できるという前提で生活を考え、謙虚さを失っていなかったでしょうか。自然はそれ自身の理によって動き、人間同士の合意や決まり事と無関係です。

東日本大震災を経た今、さらに市場経済の破たんが世界中でささやかれる今、いのちはただ単に経済効率や単純な技術進歩だけで守られないというのが、ささやかな確信です。この中で新たな模索が始まっています。その声は今でこそ小さくとも、やがては人類生存をかけた大きな潮流にならざるを得ないと思っています。

その意味で、貴会の掲げるテーマは大きな挑戦として、幾多のフロンティアを生み出してゆくと信じています。女性であればこそ、理屈ぬきにいのちの尊さを、利害を離れて直観できるものがあると思います。これがきっかけとなり、大小の工夫が生み出され、次世代への大きな力となってゆくことを願ってやみません。

今回のフォーラムの開催が意義多きものとなるよう、お祈り申し上げます。

平成 24 年 6 月 中村 哲

総会時、全員に配布した「Yes」「No」ボードを使って会場のみなさんにも意見を尋ねてみました。その内容を膨らませて、パネリストの方々から意見をいただきました(パネリストの方々の敬称略)。

パネルディスカッション

●豊かさ、幸せとは

会場へ「自分の仕事は人々に幸せをもたらしていますか？」

⇒会場☆Yes 優勢

パネリストへの質問：科学技術(土木または IT)は人間に幸せをもたらすでしょうか？ そのためには科学技術を提供する技術者としてどのようなことに留意すればよいでしょうか。

山本：土木に限らず、歴史でものを考えれば、科学技術は人々に幸せをもたらしてきた。子供時代は、赤痢などで亡くなる人もいたが、今はいない。問題は、人間が制御できない技術に手を出していることである。原発、クローン人間、高度成長期の環境破壊等、科学技術の功罪もある。

木村：発展した日本にとって、科学技

術は不可欠であり、幸せをもたらしていると思う。しかし、カメルーンのインフラがまったくないところにも、幸せな生



活はある。

浅川: 幸せをもたらしていると思う。例えば、電話のナンバーディスプレイが表示されたことによって、いたずら電話がなくなった。もちろん、技術には両面があり、負の面も必ずあるので、バランスを取る必要がある。最近、目が見えなくても人間を識別できるという、いいな、と思っている。男性なのか、女性なのか、それだけの情報でも目が見えない自分からすると構え方が変わってくる。人を認識できたら、便利で安心安全になるかもしれないが、プライバシーで負の面がたくさん出てくるだろう。

●ワークライフバランス

会場へ「ご自身のワークライフバランスに自信をお持ちですか？」

⇒会場 ☆ Yes 若干優勢

山本: すごくとれていると思う。学会長が6月14日に終わり、仕事も6月で終わる。妻からは「世の中の奥様は夫が帰ると嫌な顔をする」との情報を得ている。つまり、帰ってくるな、と間接的に言われているのかもしれない(笑)。炊事洗濯等、家事は得意で、仕事以外のこともやって来た。これからも個人的にもやりたいことがたくさんある。ワークライフバランスは、人の工夫次第で、やりたいことを24時間やっていれば、会場のみなさんも赤(Yes)になる。

木村: オランダ留学時代、すべて自分でやっていた。しかしこのことは妻には秘密。なんでもできると思われても

困るから(笑)。いまは、学校、NPO、学会の活動を寝る間、遊びの時間を惜しんでこなしている。そして新幹線など移動で寝る日々。妻とは顔を合わせる時間が少ないが、共通の趣味を持ち一緒に山へ登っている。

浅川: 大学生になる娘がいる。一人前になり、今まで以上に仕事に集中できると思っていたが、少し寂しい感もある。お子さんが小さいうちは、仕事も大変だが居たいだけ一緒にいられるように頑張ると良い。どっちも頑張れば結果がでる。寂しいと思わないくらい一緒に居るようにする。



●土木の未来

会場へ「もう一度仕事を選び直せるとしたら土木を選びますか？」

学生さんへ「卒業したら土木の仕事に進みますか？」

⇒会場(学生含む) ☆ 半々

パネリストへ: 日本のように社会基盤の成熟した社会における土木の役割とこれから進むべき方向について、ご意見をお聞かせください。

山本: 震災が起こった後、土木志望者が増えたと聞いた。昔、交通インフラが必要なときに増えたなど、学生もそのときのムードで決めているのがわ

かる。科学技術が進歩するとニーズが変わり、土木もニーズに合わせて進歩する。建設の次はメンテナンスというが、この間に改良という仕事がたくさんある。東京駅は50年間ずっと改良工事がある。インフラを改良する必要がなくなったときに、科学技術の進歩も止まり、社会も終わると思う。土木工学科は総合性、汎用性がある。土木を出たからといって、土木に携わっていないときもある。私も土地利用、ホテル、ショッピングセンターなどを10年間くらいやっていた。

木村: 人間の欲望があるかぎり未来はある。例えば、スピルバーグの映画のようなことを考えると、車は道を走っていない。もしかしたら、インフラの作り替えが必要になるかもしれない。ジェネラリストのような仕事は、土木の勉強から出てくると思う。

浅川: 情報側からみると土木の未来はあると思う。エネルギーの効率化、震災対応も考えると土木の技術である。会社のオフィスが大和事務所(神奈川県大和市)から豊洲事務所(東京都江東区)に移ってから、地震が起きるとかなり揺れるようになった。しかし、いまは緊急地震速報等も発達しておりPC上には数十秒経つと問題ないというメッセージが出る。これもひとつの技術である。

成熟したインフラとしては、日本がモデルとなる。ブラジルの活気もすごいですが、日本には洗練された美しさもある。成熟したロールモデルとして一緒に進んでいきましょう。

土木技術者女性の会 シンボル・ロゴが決定しました！

土木の仕事は、社会を支える大切な仕事です。

それは命、そして未来を守っていく仕事とも言えます。

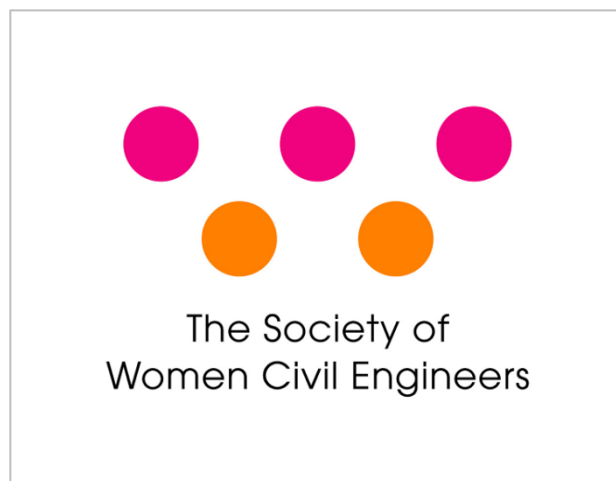
従来、男性の仕事と考えられていたこの分野にも女性の進出は目覚ましく、今後、より女性の活躍が期待されていくでしょう。

女性の土木技術者が生き生きと働ける未来をつくることはこれからの社会を支えることです。

本会は、土木の仕事にやりがいと誇りを感じる女性技術者と土木技術者を目指す女子学生の集まりです。

会を広くアピールし、皆様に親しみをもって応援していただくためにシンボル・ロゴを募集し、デザイナー等で構成された審査会において決定し、2012年6月22日「どぼく未来フォーラム」にて表彰式を行いました。

〈最優秀作品〉



南部 真有香さん(大阪府)

●講評～最優秀作品について～

☆女性（woman）を表す、「W」をモチーフに非常に分かりやすいマークであること。

☆例えば「橋梁」のような特定の業界を思わせず、シンプルで汎用性の高いデザインであること。

☆また、当会の5つの目標を5つの点（丸）で表現し、かつ、知の集積を表現できていること。

☆それぞれの点の距離間が、コミュニケーションを意識させるイメージを持っていること。

☆余計なものをそぎ落とし、単純化することによって、未来への広がり、発展への可能性を示す

メッセージが発信できること。

☆オレンジとピンクの暖色系の色使いは非常にうまく、かつ、オレンジは力強さ、発展性、元気を思い起こさせ、女性の会を表現するのにふさわしい色使いと言えること。

☆この配色は一般的にファッショナブルやポップなイメージになりがちだが、シンプルな造形との組み合わせにより、品位を感じられること。

以上の点をもって、南部真有香さんの作品を最優秀作品とし、当会のシンボル・ロゴと決定する。

●南部さんのコメント

このたびは、土木技術者女性の会のシンボルマーク最優秀賞を受賞でき、とても嬉しく思っています。審査員と関係者の皆様に感謝のお礼を申し上げます。ありがとうございます。

シンボルマークは土木の仕事にやりがいと誇りを感じる元気な女性の姿を円で象徴しています。

土木技術者女性の会を象徴する、活動的で元気な女性の姿は、日本を元気にすると思います。

私は、グラフィックデザイナーですが、同じ仕事をする女性として、ともに日本を元気にできる

ように頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。



最優秀賞の表彰式の様子
(写真左から、桑野会長、南部さん、牛山企画 WG リーダー)

<佳作>

大坂府 関 和廣さん / 青森県 工藤 和久さん / 千葉県 神保 米雄さん
東京都 村田 一郎さん / 岐阜県 安川 公生さん

●シンボル・ロゴ募集について：

- 募集期間：2012年1月11日～3月23日（必着）
- 応募作品総数：463点（応募人数：276人）
- 審査会：2012年4月1日13時25分～17時10分
- 審査委員会委員（敬称略、50音順）



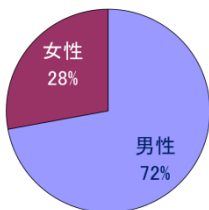
審査の様子



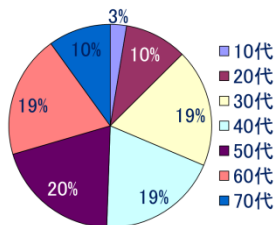
- ・嶋高宏（グラフィックデザイナー、(株)嶋デザイン事務所 代表取締役、(社)総合デザイナー協会DAS 副理事長）
- ・清水征行（アートディレクター、青空(株) 代表取締役、(社)日本グラフィックデザイナー協会大阪地区代表幹事）
- ・杉崎真之助（グラフィックデザイナー、(株)真之助デザイン 代表取締役、(社)日本グラフィックデザイナー協会運営委員）

<属性>

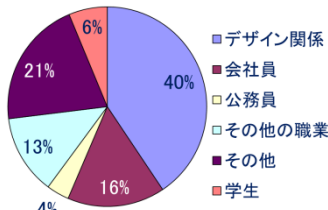
性別一覧



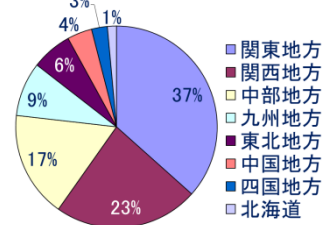
年齢別一覧



職業別一覧



住所別一覧



「土木」と聞いて、まず現場工事を想像するのか、ヘルメットやスコップ、重機をモチーフにした応募作品が非常に多く見受けられました。

これは、「土木」は現場だけでなく、計画、調査、設計、都市計画等、さまざまな業態があることを一般の人に理解いただけていないことの表れであり、当会としても、PR 不足を痛感し、反省材料としているところです。

しかし、応募属性分布を見てもわかるとおり、非常に多くの年齢層、地域から応募いただいたことは、当会としても喜ばしく、この場を借りて感謝申し上げます。

シンボル・ロゴの決定にあたって 企画 WG リーダー 牛山 育子

会のシンボル・ロゴが決まりました。皆さん、いかがですか？シンプルで、女性らしく明るいシンボルマークだと思いませんか？

30周年記念行事の一環として、シンボル・ロゴコンペを担当した企画WGとしては、非常に感慨深いものがあります。

シンボル・ロゴは、当初、第30回記念総会の記念行事の一環として、公募する予定にしていました。それがあの3・11（東日本大震災）で、日本ごとひっくり返ったような状況になり、結局、第30回記念総会は、翌年の30周年を迎える年に、「30周年記念総会」として実施することで、2011年開催予定のイベント、フォーラムをすべて延期としました。シンボル・ロゴコンペの準備も着々と進めていたのですが、これはあくまで記念行事の一環であること、そして何より、この記念総会を、そしてこの会をPRするための大きな役割を担っていることを踏まえ、同じく延期を決めました。

コンペは1年後に実施されることになりましたが、当初から、作品の質を確保するため、できるだけプロの応募も促したいという思いがあり、シンボル・ロゴ審査会の委員はすべてプロのデザイン関係者をお願いし、また、プロデザイナーが応募しやすい額を目安に、最優秀賞の賞金額を決めました。

結果、応募総数は想定をはるかに超える463点が集まりました。

初めは、知名度もそれほど高いとはいえない当会のコンペに200点も来れば良い方だろう、と考えていたので、これはうれしい悲鳴でした。また、プロの応募も多く、これは目論見どおりで、ほっとしました。

審査会当日は、非常に熱い議論が交わされ、審査員の方々からは、土木業界における我々コンペスタッフの立場や思いについても聞いていただき、審査は3時間半にも及びました。

審査員の全員一致で決まった最優秀賞受賞者は、南部真有香さん。最終選考に残った8点の作者の中でたった一人の女性デザイナーでした。女性の会のシンボル・ロゴは、期せずして、女性デザイナーの手によるものとなりました。最優秀賞決定後、偶然ってあるものだなあ、と一同感心し、しかも、大学を卒業したばかりの23歳の若手デザイナーで、開けた未来を予感させるような気持ちになりました。



著者と南部さん（右）



最優秀賞の症状

記念総会当日、表彰式を行い、南部さんに実際に会場まで来ていただきました。

本人にお会いしたら、ちっちゃくてかわいらしいこと！彼女は当日の記念行事にすべて参加し、懇親会にもお付き合いくださいました。デザイナーの世界も女性が少ないらしく、デザイン系の協会に所属する女性は、土木学会と同じく数%ほどしかいないので、親近感がわきます、と話していました。

審査会では、最優秀賞以外にも佳作の5作品を決定し、総会当日の表彰式と、会のウェブページ上で入賞者の発表をしました。その後、プロのデザイナーである佳作入賞者のおひとりから、次のようなメールをいただきました。

「ウェブに掲載された最優秀賞のマークを見て、究極までムダを省いたシンプルさや色使い、シンボル・ロゴとはこうあるべきだということを再認識し、大変、勉強になった」。

このコメントを読んだとき、このシンボル・ロゴを選んで良かった、と心の底から思いました。プロの言葉ただけに余計に重みを感じます。

今後は、このシンボル・ロゴに込めた、未来への拡がり、力強さ、発展性といった意味を大切に、使っていきたいと思います。

●○● どぼく未来宣言 ●○●

今後の会の展望をまとめた「どぼく未来宣言」です。

フォーラムの最後に、採択し、会場一体となって読み上げました。



どぼく未来宣言

土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重大な使命を担っています。

わたしたち土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むと共に、これを次世代に伝える努力を続けます。

2012年6月22日
土木技術者女性の会

第 31 回 総会報告

2012 年 6 月 23 日(土)に、第 31 回総会が開催されました。

総会の開催報告は、以下のとおりです。

記

1. 日 時： 2012 年 6 月 23 日(土)9:30～12:00
2. 会 場： こどもの城 902・903 研修室(東京都渋谷区)
3. 次 第
 - 1) 開 会
 - 2) 会長挨拶
 - 3) 2011 年度活動報告
 - 4) 2012 年度活動計画
 - 5) 第 32 回総会について《中部地区》
 - 6) 第 33 回総会開催地について
 - 7) その他
 - 8) 閉 会

※閉会后、創立 30 周年記念総会「土木技術者女性の会・創成期秘話」パネルディスカッションを開催いたしました。詳細は次ページをご参照ください。

4. 出席者

出席者：42 名＋委任状提出者数 53 名＝計：95 名
(当会会員数 172 名、2012 年 4 月 1 日現在)

5. 開催結果

第 3 号議案から第 7 号議案まで、異議無く原案通り承認可決されました。
なお、次回(第 32 回)の総会は、中部地区での開催を予定しております。

(総会資料は、HPをご参照ください)

＜ 創立 30 周年記念総会 ＞

「土木技術者女性の会・創成期秘話」 パネルディスカッション

どぼく未来フォーラムの次の日、まだフォーラムの余韻を残しながら、設立当時のメンバーによるパネルディスカッションが行なわれました。仕事についてはもちろん、個人的なことまで赤裸々にお話いただき、共感できることだけでなく驚きもたくさん。設立当時から作られてきた女性の会の雰囲気を感じながら、フォーラムとは違う、熱気が溢れていました。

設立当初の土木技術者女性の会

岩熊さん◎私からは、会の設立当初の話をさせていただきます。第一回総会の時に正木さんがご欠席され、お手紙が回覧されました。そこには、「ともかく会を続けること」と、書かれていました。そこで、どうしたら長く続けていけるか考えました。

当時の会誌『輪』は、もちろん手書きです。寺本さんの子育て奮戦記、これが非常に参考になりました。「私、今度、子どもが産まれます。預かってくれませんか」

と、1 階上の人を扉を叩いて言った、と書いてあったり。私は本当にお子さんのいる隣の家の扉を叩きました（笑）。その土地では子どもを産まなかったのが、願いはしなかったのですが、参考になりました。

それからもう1つ。天野さんと須田さんが書かれた、『第 1 回会合議事録(昭和 58 年 5 月 28 日)』です。



設立当時の写真

当初から、各地区の持ち回りで総会をやり、遠方まで行けない人でも 3 年に 1 度は会えるような仕組みを作ったことが書かれています。私は、これがとてもよかったですと思いました。また、名称は見ただけで内容がわかる名前にしよう。「土木」「技術者」「女性」というキーワードが入っていないとおかしいね、という事を話していたり、会誌の『輪』は、みんなのつながりがわかるような名前にしようとなり、現在も使っている表紙は天野さんが書いてくれました。そういうやり方のスタートが長続きしたのだと思います。

個人の関わりは、女性の会に参加することで、会社に承認されて、土木学会の編集委員や広報をさせていただき人脈や考え方に広がりが出ました。当時は、犯罪者は「土木作業員の〇〇」という風潮があり、土木業界のイメージが損なわれると、新聞社等に意見陳述をしました。やはり、正しく理解されるためには、広報活動が不可欠であるということでその当時は、土木学会でも大手企業の役員が中心になり、力を入れていました。2 年くらいお付き合いさせていただき貴重な体験だったと思っています。

配布物のアンケート用紙の写真がありますよね(左の写真)。これは、昭和 61 年 5 月 10 日に第 5 回総会で懇談会を開催した時の写真です。趣旨は、『土木技術者女性の会が誕生してから、3 年が経過し創設期は終わりつつある(この間、会員は 30 名のままで

す)。会として存続に重点を置き活動をしてきた。土木学会を中心として少しずつ外へ向かって存在感が表れつつある。この懇談会は、土木女性技術者になにを望むか、珍しがられるだけではなく、われわれも男性の意見に耳を傾け、プラスの面、マイナスの面含めて忌憚のない意見を交わし、個人としても会としても成長するものになりたい』ということでした。作家の田村喜子先生もいらして、男性も多数、いろいろな方に来ていただきました。女性が仕事を続けていくためにさまざまなことを話し合っています。

会の5つの目標は、寺本さんの提案です。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者をめざす女性へのアドバイス

現在、4、5に比重が置かれるようになりましたが、設立当初から3、4、5まで入れているのは、先見の明があったのだと思います。

子育てはマネジメント能力が高くなる

天野さん◎寺本さんからたぶん、初めてお会いした時にいただいた言葉ですが、

「私は、まあいいか、でやってきました。ぜひ、まあいいか、でやってください」

と言われました。やはり、1日24時間しかありませんし、寝なくてははいけません。子育てをしていると悩むので

すよね。なので、細く長く続けて、いろいろなことを割り切ります。2年我慢すると、状況も変わります。当社で、須田さんもたぶん感じていると思いますが、女性が子育てしていると、マネジメント能力がものすごく上がると思います。やはり、割り切ることを覚えるのです。

「まあいいか」ですね。これをやらずに一人で抱え込むと病気になってしまうので、そこはバランスよく考えてください。

今の私があるのは息子のお陰

中西さん◎子どもができてから、子育ては、めいっばい楽しもうと思い、仕事と両立する方法をいろいろと探りました。当然、育児休業という制度のない時代でしたので、産んでからは、産後休暇(産後8週)＋年次有給休暇です。給料は年給者として100%もらえる恵まれた状態で子育てが始まりました。しかし、復職してからは24時間体制で、残業あり、土日のただ働きもあるという状態でやってきました。

一番苦労したのは、小学一年の時のいじめです。保育園のお母様方は同じ境遇でしたが、小学校に入ると専業主婦がほとんどでした。その違いが子どもを通しての子どもいじめに及び、自殺しかねない状態にまで追い込まれました。主人となんか変、なんか変と感じていて、何とか打開してあげたいのですが、男性と同等にがんばっていたので、仕事で手が回りませんでした。夫は私以上に多忙なため、仕事を家に持ち帰り子どもが寝ているときに仕事をし、子どもを観察する日々が続きました。その時の経験でお母様方への

対応が一番神経を使うようになりました。

大学受験後に息子から、

「お母さん、あの時、僕はここから飛び降りたら死ぬ、と思ったけど、お父さんもお母さんも、なんか



左から、司会の松本さん、関さん、天野さん
中西さん、岩熊さん、正木さん

知らんけど一生懸命働いているし、しんどそうだけど、楽しそうだった。僕もそうになりたい。死にたいと思ったが、帰ってくるととにかく一生懸命遊んでくれた。」

と言われ、親ががんばっていることが、子どもなりにがんばる気分になってくれたことに「ありがとう」と言いました。苦労はしましたが、私は息子に育てられましたし今の私があるのは息子のお陰です。

あなたが潰れたら会社が困る

中西さん◎天野さんが話された「まあ、いいか」ということですが、ここ数年、評価、評価そればかりの非人間的な社会に移行していると感じています。メールの普及で何メガバイトの容量でも「すぐにデータを送信して欲しい」と仕事に追われる日々が続く、みんなが追いつめられている気がします。事実、周りにうつ病が増えています。一生懸命働いても給料は上がらない。まじめに仕事しているのに、帰宅が遅いと奥さんからは「あなた、こんな遅くまで何をやっているの」と言われる。

私は、奥さんや子どもの誕生日には、「できるだけ早く帰れ」「メリハリをつけることを覚えな！」「家族がしんどい時は、即帰れ」と言っています。査定をする人がなんとおもうと、あなたが潰れたら会社が困るのだし、同僚も困るからです。

年に一度の総会に参加し、上下・利害関係に捕らわれずに腹を割って女性特有の境遇を話し合い自分の膿を出すと同時に仲間の問題を分かち合う素敵な夜の時間が好きです。それからもう一つ、この会に入っていて一番ありがたかったのは、会社の上役たちが、わが社の女性技術職の処遇に対して恥ずかしいと認識してくれたことです。また、創立30周年記念総会の事を話すと「すごいなあ、30年もボランティアで続いているのか。土木の男どもを奮い立たせるよ。がんばれい」という応援の言葉をいただきました。今後も会の存続が期待されています。



人とのつながりを大切に

天野さん◎みなさんにお話ししておきたいと思っています。坑内労働規制緩和のときの話です。

チャンスが広がるということのひとつだと思うのですが、私もいろいろな立場から、厚生労働省の職員と非常に仲良くなりました。大阪にて女性の坑内労働が問題となり、その女性局長と飲んでいるときに「こんな話があつてとんでもないでしょ」という話をしたら、この方は均等法の改正のメインメンバーでした。

ちょうど、日本は国際条約に批准していて、坑内労働を禁止する法律を持っていることが非常によくないということで、きっかけがあれば、改正をしたいと思っていました。

須田さんに女性の会をまとめて、ニーズの洗い出しをしていただき、土工協を通して日建連(いまの建設三団体)の総意として、経団連に要望書を出してもらいました。そして、前向きな意見を述べてくれる産業医を中心に専門家の審査機関ができあがり、法改正へと繋がっていきました。

資格を取ることも必要ですが、いろいろな場に出てください。つながりを作っておくと、どこからどのような話が出てくるかわかりません。作ってほしいです。

自分を支える言葉を見つける

正木さん◎偉そうなことは言えませんが、都合の良い時に都合の良い言葉を見つけてください。

私は、子育て中、仕事で手がいっぱいになり時間も足りない時期に、沢村貞子さんがおっしゃった言葉に出会いました。

「人間はできることに限りがある。家庭が1であれば仕事が9、家庭4なら仕事6、それ以外の社会活動も入るとその分だけ削られる。短い時間のなかで何ができるのか、どこに重点を置くのかを考えればよい」と。

その考えに触れたとき、気が楽になり、救われました。それから、仕事が上手いかない時に、中山千夏さんの言葉に勇気づけられました。

「どんな仕事でも目の前にいる人を大好きになる。男性なら、最愛の人と思い仕事をし、女性なら一晩中語り明かせるくらいのお友達だと思って相対すれば、少々言い合いになっても仕事はうまくいく」

これは難しいですが、そういう風に思えば仕事は楽しくなります。

紹介した言葉や意味の正確性は、いまとなつてはあやしいものですが、このように、意外と自分に都合良く取れる格言的なものをみなさんがおっしゃっていて、それを利用していけば、気持ちが楽になるので、仕事するうえでおすすめです。

ここぞと思う所は底力を

関 ◎会の創立の頃に私たちがやっていた時と、雰囲気が違う気がしました。肩の力が抜け、気楽になった、という語弊があるかもしれませんが、入る分にはハードルは低くなっているのかなと思います。しかし、実際に働いていると、どこへ行っても少数派で注目を集める存在だということは、同じです。気楽に見えても、実はどこかですごいがんばっているんじゃないかなあ、と



見ていました。

先ほどから先輩諸姉が「がんばらないで力を抜くようにしてきた」おっしゃっていますが、私は皆さん本当にながらんでいるな、と見ていました。きちんと自分の仕事に誇りを持ってやっている時は、どこかでがんばらなくてはいけない時があると思うのです。最初から最後までがんばることはないと思いますが、ここぞと思う所はやっぱり底力をみせてがんばって欲しいです。それが、仕事か私生活か、どのような時なのかわかりませんが、やっぱり踏ん張り所があって、そこを乗り越えようと、新しい展開がみえると思います。

会の展望としては、このまま続けることに意味があると思っています。昨日のフォーラムの雰囲気とてもよかったです。会の方針に「女性技術者の」という枕詞がついていますが、最初につくった頃は、この言葉がなくなるようにして、会が消滅するとよいね、という言い方をしていました。昨日のフォーラムを見ると、女性が集まる意義は、とても大きいのではないかという気がしました。この会の女性技術者の良さをますます活かして欲しいと思います。

当日は、たくさんのお話をいただき、書ききれなかったことがたくさんあります。次号『輪(No.54)』では、学生時代のお話や、当時の時代背景、社会人初期の苦労話を中心に掲載を予定しています。

参加者の感想



“どぼじよ＝素敵女子”を確信した日 雨宮 美子(関東地区)

私はここ数年、仕事に対し、ずーっとモヤモヤとした想いを引きずっています。ですから、「土木技術者女性の会」に一昨年入会させて頂きながら、近寄り難さを感じておりました。この度の総会もいつものように欠席するつもりでしたが、「どぼく未来フォーラムもあるし、参加してみたら？」と、お声がけ頂き、思い切って参加致しました。

その結果、初日の「どぼく未来フォーラム」では、無沙汰だったにもかかわらず入会をすすめて下さった方から温かいお心遣いを頂いたり、フォーラムの奥深さに感じ入ったり、配布された資料を読みながら涙したり、懇親会のビンゴ大会に興じたりと、いつのまにか自分の中に活力がふつつつ湧き上がるまでに至りました。

次の日の総会は、会に対する皆さんの真摯な想いに眠気も吹き飛ばす程でしたが、特筆すべきは、「土木技術者女性の会 創成期秘話」のパネリストの方々の笑顔に出会えたことではないかと思えます。優しく、朗らかな笑顔。周囲をも笑顔にする笑顔です。

今回伺ったお話は、皆さんのご経験のほんの一部であると思います。それでも、すっかり魅了されました。いつか私もキラキラした笑顔で、自分のことを語るができるだろうか？このような貴重な機会を頂いたのだから、いつまでもモヤモヤしては、もったいないじゃないか？そんな自問をしながら、去る日のことを思い出しました。

遡ること15年前。私が大学の土木工学科に配属となった時、同期女子学生は全部で4名でした。すぐに仲良くなり、いつも一緒だったからか、「どぼじよ軍団」と呼ばれるようになりました。初めは、その何とも滑稽な呼び名に抵抗があったものの、まもなく愛着を感じるようになり、自ら「どぼじよ」と称するようになりました。

ところが、この話を他学科の部活仲間になると、「うわっ。汚ね！全部濁点じゃん！！」とか、「建築女子は、けんじよ…。賢そう。どぼじよ…。馬鹿そう。」等とシビアな意見が飛び出したのです(言葉の裏には、愛があったと信じています！)。

『どぼじよって、素敵女子だよ。』と総会の場合から言ったならば、その声は、率直な彼らに、きっと届いたことでしょう。総会で拝見した“笑顔”を、私は目指していきたいと思えます。

関係者の皆様、どうもありがとうございました。

総会に参加して 塚本 雅美(中部地区)

久しぶりの土木技術者女性の会への参加でした。

社会人となってはや23年の歳月。土木技術者女性の会に入会して約22年半。

6月22日の土木フォーラムに出席した際には、あまりにも立派な会場で、沢山の出席者と共に多岐にわたる講演を聴講出来たことに感動・感謝でした。

結婚し、出産し、さまざまな事があり、土木の職種を離れた期間もありましたが、フォーラムに参加したことで土木技術者の一員であることの実感が湧いてきました。

記念講演では、IBM フェローの浅川智恵子さんには、その人ならではの視点で物事をとらえ新しいものを作り出す事が出来ることを。土木学会会長の山本卓郎さんからは、いのちと豊かさについて土木技術者がいかに関わっていくのかを。京都大学の木村亮教授からは、難しい事をいかに誰でも出来る方法を考え、そこに関わる人達で成し遂げるよう指導することの素晴らしさを。応援メッセージを頂いた中村 哲先生からは、ただ食料を与えるだけで貧しい人々を救うことは出来ず、人々が生活できる環境を共に作ることの重要性を。日常に追われ、気付かなかったこと、忘れていたことを思い出す良い機会となりました。

日常は、地方の建設会社で現場管理者の業務支援に追われる毎日ですが、物事をシンプルに考え、業務をこなす重要性を痛感しました。

6月23日の総会では、女性の会創立時の方々よりありがたいお話を頂戴することができました。女性技術者が社会人として働いていく上でさまざまな試練と喜びがあり、先人達が試練や苦しみをいかに目標や喜びに変えてきたのかを教えて頂くことができました。

そして、女性が自分の立場を確立していくためには、資格取得が重要であることを痛感しました。女性が働き続けるには、自分をとりまく家族や生活環境などの状況の変化によって、働くことの形を変えていかなければならない事もあります。

さまざまな環境の中で働き続けることの難しさや大切さを考え直す良いチャンスだったと思います。私としては、久々の総会という事もあり、懐かしい面々と現状報告や新たに入会された方たちとの自己紹介等楽しい時間となりました。

社会生活の中で営利目的でない友人関係を構築することはとても難しいものです。しかし、女性の会の会員の方はそのような考えの方がおらず、公私共々相談しあえる素晴らしい友人関係を保てていると感じます。

私が精神的に苦しい時に、温かい励ましや心配をしてくれたのも女性の会の友人でした。

そのような、友人関係を築けたこの会に感謝しています。

最後に、愛知県から東京での総会&土木フォーラムに参加を許してくれた最愛の子供達にひたすら感謝です。(普段言葉では言えませんが……。)

お兄ちゃんありがとう！



みらいフォーラム参加の感想 塩津 絵理(関東地区)

今回、初めて女性技術者の会に参加させて頂きました。講演会、パネルディスカッションでは普段聴くことができない貴重なお話を聴くことが出来て大変刺激を受けました。

特に、浅川氏による情報アクセシビリティの講演では、ITと土木とが密接に関わることによってよりよい社会の実

現に繋がることを学びました。普段業務が忙しく、情報が閉鎖的になっていると感じていたので、他の業種であるIT分野のお話が聴けて嬉しかったです。

また、浅川氏は御自身に障害を持ちながらお子さんを育て、海外での仕事も数多くこなしていることにとても驚きました。情報のバリアフリー化に対する信念や誇りを強く感じ、感銘を受けました。

私は現在ゼネコンで働いており、体力的にきつと感じたり、自分には無理なのではないか、と悩むことが度々あります。今回、講演を聴いて、自分が取り組んでいることに対して信念を持ち、あきらめなければ自分にも道が開けるのではないかとポジティブな気持ちを持つことが出来ました。

パネルディスカッションでは、クイズ形式で会場が参加できる形で、他の技術者の方々、また講演者の方々がどのように感じているのかが分かり楽しく聞くことが出来ました。

講演会・懇親会と参加させて頂き、普段関わることのない方々と交流が出来てよかったです。女性技術者は土木、ITに関わらずとてもパワフルですごい方々ばかりだなと感じました。毎年女性技術者は増えており、周囲の理解も少しずつ得られるようになっていきます。しかし、先輩方は大変なご苦勞をされてきたのだなと感じました。土木分野において女性が重宝されるように私たち若手も頑張らなければなと感じました。

今回はこのような会に参加できて大変有意義な日を過ごすことができました。講演者の方々、運営スタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(最後に・・・私は現在トンネル現場で働いておりますが、坑内労働規制緩和の活動がなければここで働く自分はいないのだなと思い、女性技術者の皆様に感謝しております。)

フォーラム、総会に参加して 佐藤希絵(関東地区)

社会人2年目に入会させて頂いてから、今回初めて全体の行事への参加となりました。

初めての全体行事、加えて単独参加ということで、不安を抱えて会場に到着しましたが、受付の方がすぐに気づいてくださり、とてもホッとしたのを覚えています。

「どぼく未来フォーラム」で幕を開けた行事は、基調講演に始まり、パネルディスカッションと興味深い内容ばかりで、自然と聞き入っていました。特に、パネルディスカッションはカードを使う形式で、楽しく参加させて頂きました。(かわいいぶたさんのカードは、今も会社のデスクに飾ってあります)

また、総会後の創立30周年記念総会では、会の設立時のメンバーの方々が、パネリストとなって様々なお話をして下さいました。

今よりも女性が働くことが難しかった時代に、それも土木という分野で、キャリアを積んでこられた諸先輩方のお話は、とても勉強になったと同時に、自分ももっと頑張らなければと励みになりました。

人見知りをしてしまうところがあるので、自分から話しかけたりはできなかつたのですが、同世代の技術者の方や様々な職種の方ともお話することができ、嬉しかったです。

主催された皆さま、本当にありがとうございました。

これからも参加させて頂きたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

私と「土木技術者女性の会」

片岡 沙都紀(北海道地区)

まずは、今回の記念総会を開催するにあたって長い期間中心となって準備をなさってきた関東地区や事務局の方々、大変お疲れ様でございました。私は総会前日に開催されました「どぼく未来フォーラム」から参加させていただいておりましたが、講演やパネルディスカッションなどを聴いて「なるほどなあ」と大変興味深く聴講させていただきました(特に IBM の浅川さんのご講演を聴いて、「今は当たり前のように使っているパソコンの音声技術は、浅川さんたちの業績なくしては語れなかったんだなあ」とビックリしていた次第です)。それと、私が楽しみにしている年中行事の一つとなった、「お泊まり会」にも参加できてよかったです。普段は男性ばかりの職場なので、女性の、しかも土木に従事している方々とお酒を片手に話をする機会があるということがとても嬉しく、今回も楽しいひと時を過ごさせて頂きました。私にとって年に1度のこの総会に出ることは、「さあ、また函館戻って仕事頑張るか！」という気持ちにさせてもらえる「気分をリフレッシュする場」となっています。今年も本当に楽しいひと時をありがとうございました。

「30年」という土木技術者女性の会の歴史を考えると私は入会してまだと一っつも浅いので何かを言える立場では全然ないのですが、今回総会などに出席させていただき「今の自分があるのは、『土木技術者女性の会』のおかげでもあるよなあ」ということを思い出しながらお話をお聞きしていた次第であります。

私がこの「土木技術者女性の会」と出会ったのは6年前、私がまだ大学で学生(大学院生)をやっていた頃です。当時の私とはいうと、もちろん土木系なので、①まわりは男性ばかりで、②同世代の女性と話をする機会が極端に減っていて、③ましてや女性の土木技術者と接する機会なんてほとんどなかったという3拍子そろっていた上に、「大学院まで行っておいて、就職とか、今後のことはどうしたらいいんだろう」と悩んでいた時期でもありました(今思うと、悩むほどのことではなかったのだと思うんですけどね...)。そんな中、研究関係でお知り合いになった佐藤厚子さんから「これ読んでみたら？」と言われていただいたのが「Civil Engineer への扉」でした(きっと佐藤さんはもう覚えてないと思いますが...(笑))。正直、あの本をもらうまでは土木業界にいる女性技術者の活躍をあまり目の当たりにすることがなかったので、「こんなにいろんなところで土木に従事する女性の方がいるんだあ...」という衝撃にも似たものを感じたのを覚えています。それからこの会のことをいろいろ調べ、教えてもらい、学生会員として入会したというのが経緯です。その後、卒業間近になって就職を考えると、就職先を決める理由の一つに「女子学生がもっと土木に従事する女性技術者の方々と話す機会を増やす『架け橋』的存在になれないだろうか」ということを考え、今の職場である函館高専に決めました。ですので、私がこの職場に決めた「きっかけ」は、この「土木技術者女性の会」に作ってもらったと思っています。

本校には現在、土木系を希望している女子学生がたくさん在籍していますが、私が学生のときにそうだったのと同様に、彼女らが社会で働く女性の方々と接する機会は極端に少ないのが現状です(関東地区とかにいれば女性技術者の方々と接触するイベントなどにも参加できるのでしょうが...)。ですので、この「土木技術者女性の会」を通して、本校の女子学生が女性技術者の皆様がたと交流できる場を上手く設けていければいいというのが今の私の希望です。皆様、今後ともよろしく願いいたします!!





うーん、女性って美しい！！

西倉 優子(関西地区)

今年の1月に入会しました西倉と申します。入会した年の総会が創立30周年の記念総会！と、なんとラッキーな時期に入会し、刺激的なイベントに初参加させていただきました。

総会から数週間が経過し、心のテンションも平常に落ち着いた今、総会を振り返った感想はひとこと。タイトルのとおり「うーん、女性って美しい！！」

の感嘆の言葉につきます。ちなみに、総会直後でしたら「・・・△○※◎すごいです△¥*◎！！」と、日本語でうまく表現できないくらい密かにテンションがあがっていました。

前日の「どぼく未来フォーラム」の規模の大きさや充実度合いに始まり、シンボルロゴマークや翌日の総会で報告された活動内容の濃さ、そして最後のパネルディスカッションでのオフレコも含めた創設者の方々の貴重なお話、と息つく暇もない盛りだくさんのイベントの中で、どの場所、どの時をとっても、皆様のエネルギーがすごかったです！エネルギーといっても単なるパワフルさだけでなく、「凛としてしなやかな」エネルギー、女性ならではのエネルギーです。これが美しいと感じさせる秘訣なんだな…と勝手に納得いたしました。

基調講演やパネルディスカッションで繰り広げられた内容について、知らないことばかりで非常に興味深く聞かせていただきましたが、個人的に強く心に刻まれたのは、二日目の、創始者の方々のお言葉です。コンサルタントやゼネコン、行政などさまざまな業種で、道しるべがない中、ゼロから開拓し、スタンスを確立された諸先輩方のお話は、一冊の本にして残していただきたいと思うくらい、皆様のエピソードや一言一言がズキズキ心に突き刺さりました。また、想像するに、周囲の男性方が目を剥くくらい努力をされ、エネルギーでいらっしやっただことは共通すると思うのですが、「完璧主義」や「まあいいかの精神」、「勤めさせてもらえれば何でもいい」という謙虚な気持ちなど、スタンスがさまざまでいらっしやっただことも非常に興味深かったです。「土木技術者女性の会」は、土木の分野に限らず働く女性のための秀逸なメンターバンクなのだと感じました。

総会出席後、もし10年前にこの「土木技術者女性の会」を知っていたならば、また現在とは違う人生になっていたかも…とふと思い馳せましたが、いやいや、これが私の人生。まだまだ壁はいくつも迎えると思いますが、過去を振り返ったときに、笑顔で、「こういう苦労がありました」と明るく話ができる皆様のように「美しい」女性になりたいと思います。

今回の総会の出席は、私自身が内向的な性格のため、本当に清水の舞台から飛び降りるくらい勇気があることだったのですが、交流会でも皆様気さくでいろいろな方とお話ができ、楽しい時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

土木に携わる女性のひとりとして、「土木技術者女性の会」に出会えたことに感謝し、次の世代の方たちに何かしら残せるよう、私も微力ながら貢献させていただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお祈りします。

☆参加したみなさんから、たくさんのコメントをいただきました☆

フォーラムは、女性技術者に限らず、土木に携わるもの全ての視点で、“土木”というものの根本を考えるよい機会をいただきました。

また、パネルディスカッションでは、パネラーのみならず、会場の意見を赤と青のパネルで回答させる、という方法を取り入れられ、会場全体が参加している実感があり、とても良かったと思います。

その他についても、企画・準備が行き届いており、非常に充実したフォーラムだったと思います。

担当された方々、ありがとうございました！

23日は、「土木技術者女性の会 創成期秘話」には都合により、参加できませんでしたが、各WGや各地区の活動状況を御報告いただき、会の課題や活動状況を理解することができました。

法人化や冊子については、会員から意見を寄せられる窓口があるとよいと思いました。

【関東、40代、出席】



当時の先輩方が考えてくださった基礎と、記念総会を実行した現在が伝わる充実した内容で、この会が持つ力を改めて感じた。【関西、40代、出席】

フォーラムから懇親会、総会後のパネルディスカッションまでとても刺激を受けた2日間でした！【関東、20代、出席】

どぼく未来フォーラムならびに創立30周年記念総会の準備、運営をしてくださったみなさまに心から感謝いたします。『継続は力なり～女性土木技術者のためのキャリアガイド～』の題名どおり、この会が30年も続いてきたことのすばらしさを実感しました。創成期メンバーだった先輩方のお話を伺って、時代が変わったなあと思うこともありましたが、30年たってもまだまだ女性が働きやすい環境になっていないという現実も再認識させられました。

時のながれとともに会の役割も変化していくのかもしれませんが、これからも細く長く継続して、後につづく女性技術者を応援したいですね。【北海道、50代、出席】

30年間、会を支えて下さったたくさんの方々、2年間頑張ってお下さったWGの方々に、本当に感謝です！毎回、総会では力を頂きますが、今回は特に、でした。会のロゴも、同じような境遇の中で頑張る女性がデザインして下さったものになり、今後の活動の力になると思います。本当にありがとうございました。【関西、40代、出席】

昨年入会し、フォーラムはもちろんですが、今回初めて総会に参加させて頂きました。

フォーラムの基調講演や総会での創成期秘話と、貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。今の時代より女性が働くことが難しかった時代に、道を切り開いてきた方たちのお話を伺うことで、自分ももっと頑張らなければととても良い刺激になりました。【関東、20代、出席】

フォーラムは、参加者数が多くよかった。内容が盛りだくさんだったが、時間配分がよく、パネルディスカッションの際には参加者の赤青紙による意思表示ができ参加感があつた。準備してくださった方々の思いが感じられる場でした。ありがとうございました。【関西、50代、出席】



私は22日だけの参加でしたが、参加者が多くて驚きました。会が広く知られてきたってことですよ！嬉しく思います！【関西、20代、22日のみ出席】

以前、ある雑誌で、「被災地への貢献度」について、建設業界と一般の方の評価に大きな開きがあり、ショックを受けました。（情報発信力が低いからかもしれませんが、あれほど評価が低いとは思っていませんでした）しかし、土木未来フォーラムでは、土木の役割というか可能性というか、そういうことを実感することができ、また、がんばろうという気持ちになりました。「土木技術者女性の会 創成期秘話」パネルディスカッションでは、参考になる「いい言葉」をたくさんいただきました。今回の30周年記念総会に参加できて、本当に良かったと思います。【北海道、30代、出席】

ゲストの人选、良かったです。パネルディスカッションのYes、No式での参加、良かったです。子守り役を連れて行けなかったので、交流会、総会は参加できず残念でした。【中部、30代、出席】

30周年の記念総会はしばらくお会いしていない会員の皆様に会えて大変嬉しかったです。また、修学旅行のようなお泊り会もとっても楽しかったです。【北海道、50代、出席】

今回初めて参加しました。知らないというのは恐ろしいもので…。

大先輩の前の席に座ってしまっていました。運営に関わっていらっしゃる方々のご苦勞に頭が下がります。皆さんのパワーに勇気をもらいこれからもがんばろうという気になりました。【関東、30代、出席】

フォーラムは女性技術者に特化しておらず、まさに未来の土木を考えられるいい機会となりました。シンボルロゴについても、かわいい色と「土木」にこだわらないデザインで、様々な場面で多くの人に親しまれるといいなと思いました。【中部、20代、出席】

30年前、このようなフォーラムを開くとすれば、「女性」という言葉が全面に出ていたように思います。

今回のフォーラムでは、「誰もが参加できる社会」「いのちを守る土木」というテーマであり、男女といった視点ではなかったのが、諸先輩たちや私たちが積み重ねてきた30年の重みと社会の変化を感じさせました。【関東、40代、出席】

とても貴重なご講演をお聴きでき、有意義な時間を過ごせました。浅川さんの「ダイバーシティがイノベーションを生み出す」という言葉に勇気をもらいました。私自身、職場ではマイノリティですが、「女性ならではの視点」も大切にしていきたいと思っています。パネルディスカッションでは土木の原点を再認識することができました。また、アフリカでの土木事業などグローバルなお話もお聴きすることができ、視野が広がりました。当社には土木女性が少なく、ロールモデルがいません。懇親会では、働く女性の先輩方とお知り合いになれて、お話をたくさんお聞きすることができ、とてもよかったです。今回は仕事の都合で総会には参加できませんでしたが、来年はぜひ参加したいと思っています。ありがとうございました。【中部、20代、出席】

諸先輩方のご苦勞の上に、我々の居心地の良さがあるということに胆に銘じて、これからも歩んで行きたいと思っています。P.S. 記念総会行きたかったな～！
【関西、40代、欠席】

今回の総会およびどぼく未来フォーラムを実施するにあたり、準備・運営等に携わった皆様に感謝いたします。お疲れ様でした。昨年の総会に引き続き、私にとっては2回目の参加となった今年の総会でしたが、昨年初めてお会いした方々と再会し、楽しいひと時を過ごすことができとてもうれしかったです。本会が30周年を迎えるにあたり、歴代の先輩がたのお話をお伺いして、「今の自分の職場環境があるのは、先輩がたのおかげで成り立っているんだなあ」ということを実感しました。また先輩がたの教えを受け、これからは自分も会の一員として少しずつでも協力していけたらと思いました。【北海道、30代、出席】



30年前、新入社員の私は、土木技術者の仕事を続けながら結婚し子供を持つことができるかどうか不安で一杯でした。自分の中に答えの糸口すらないのに、両親や親戚に「何とかなるよ」と強がってみせるのに苦労しました。そんな私に、「たった一度の人生なんだから、何かを犠牲にする必要なんてない。仕事もプライベートも思いっきり楽しもう」と気づかせてくれたのが、土木技術者女性の会で知り合った諸先輩方です。30周年の記念行事、特にイベントは、諸先輩方から頂いたご恩を若い世代に返していこうという気持ちで取り組みました。土木技術者として地道にコツコツと仕事を続けてきた自分の経験を私的な情報も織り交ぜながら話すことでいろいろな方に喜んでいただけることを知り、とても幸せな活動となりました。恩返しをしているつもりが、いつしか多くの若いエネルギーが結集し、大きな渦となり、どぼく未来フォーラムというビックイベントを大成功に導く原動力となりました。そして、関係各位のご支援ご協力ご努力の賜物として、「どぼく未来宣言」という素晴らしい結晶を生み出すことができました。深く感謝申し上げます。

WGリーダー 須田 久美子



30周年記念総会WGからのメッセージ

一昨年度より企画・準備に頑張っておられた『30周年記念総会WG』の方々からメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

30周年記念総会に参加して思ったこと

*雨上がりの空を見ていた 通り過ぎていく人の中で
悲しみは絶えないから 小さな幸せに気づかないんだろう*

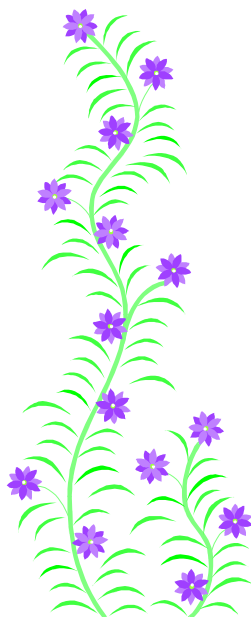
土木技術者女性の会は30年を迎えました。30周年記念総会に向けて、準備を進めていた矢先の2011年3月11日、東日本大震災が東北地方を襲いました。沿岸の風景は一変し、今まで当然のようにあった家々やビルが見渡す限り消え、立っている人の姿が遠くまで分かるほどでした。また、福島第一原子力発電所から半径20km圏内は立入禁止区域となり、町ごとそっくり、別の土地に移動せざるを得なくなってしまいました。

1年延期することにした30周年記念総会を終えて、今思うことは、「社会のニーズ」といった漠然としたものの中にある、個人が直面している一番大切なことに向き合うことの大切さについてです。自分に直面する切実な問題をそれぞれが片づける途中で、自分の近辺にも同じ境遇の人がいたら、一緒に考える。その結果、自分の役にも立って、その人の役にも立つ。その連鎖が社会全体を変える力だと思っています。この会が続いているのも、その想いが基本にあるからなのかなと思うのです。

*時を超えて君を愛せるか 本当に君を守れるか
空を見て考えていた 君のために今何ができるか*

文中の歌詞は、震災後、某保険会社のCMとして流れた、小田和正さんの『たしかなこと』です。

北原 正代



30周年記念総会WGからのメッセージ



振り返ってみると、皆さん忙しい仕事の合間を縫ってよくこれだけのことができたと思います。フォーラム直前は現場（東大生研）は大騒ぎ、秘書さん2人に連日深夜までフル稼働してもらい、何とか当日を迎えることができました。そういう自分も、フォーラムの進行やどぼく未来宣言の内容を考えるのをつい先延ばしにし、パネルディスカッション用のpptを作成したのは当日の午前中という始末。2年の準備期間があっただにもかかわらず最後はバタバタという事態に陥るのは、毎度のことではありますが反省しきりです。何れともあれ、皆さんの力を結集したおかげで30年の記念にふさわしいイベントになり、頑張っってやってよかったと充実感を感じています。タスクチームのメンバーをはじめとして会員の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

桑野 玲子

二日間通して参加して・・・

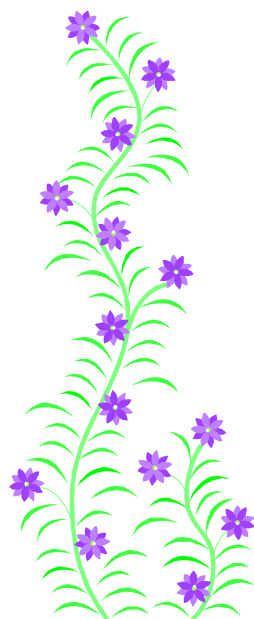
会員の力で、あそこまでのフォーラムを作り上げられる会の底力と会を創設されたスーパーウーマンの皆さんの想いを知ることによって、30年という【会の歴史の重み】をヒシヒシと感じ、また、若い会員の方々が率先してフォーラムの運営に携わっている勇姿を見ることによって、【会の将来性】を確信することができ、そして【会を継続する意義】についても認識することができました。私自身にとって、とても感慨深い二日間でした。ホント参加して良かったー！！

村上 育子



30周年記念総会WGが立ち上がった時のこと。WGメンバーの一員に入った私は、実は一度密かに辞退した。何と言っても企画力に欠けるし（この分野が一番苦手）、仙台から主としてメールだけの参加では、実務を担う力にも欠けると予想されたから。でも、「全体の方向を見ていて」と言われ、「それなら何とか」と思ったものの、そんな必要は全くなかった。WGメンバーはみな素晴らしい人たちだったもの。私も少しは働こうとプレイベントを仙台で2度開催した。学校と企業とで1度ずつ。少しは興味を持ってもらえたような気がした矢先の、あの思いもよらぬ3.11。ようやく日常に戻りつつあった時の4.7余震。記念総会そのものさえ一年延期になった。それを乗り越えて、あの素晴らしい記念総会を開いたWGメンバーを誇りに思う。みんな、ごめんね。そして、心からありがとう。50周年記念総会にもみんなで元気に参加できるといいな。

渡邊 弘子



学生時代から20数年。住む場所も仕事も変わり、年も取り…。色々なことがありましたが、変わらず会に関わらせていただいています。「女性技術者、いますよ、いますよ」と宣伝できるのはなんともワクワクすると、この2、3年、強く感じているところです。

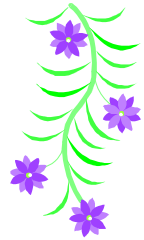
そんなわけで、30周年記念行事は今世紀最大の重要なできごとだったのですが…。オヤシラズの抜歯手術後の回復が思うように進まず欠席してしまいました。WGのみなさんには特にご迷惑をおかけしてしまいました。ごめんなさい。怒濤のようにメールが流れた直前の2週間、そして進行状況を教えてくださいメールが届いた当日のおかげで、ベッドの中で参加した気分を味わいました。でも、やはり「場」を共有したかった…。その場にいたみなさんが、それぞれの、そして会の次の30年を考えた機会になったのではと思います。

WG、そして関東地区のみなさん、ありがとうございました！

引き続き、楽しくやりましょう。

山田 菊子

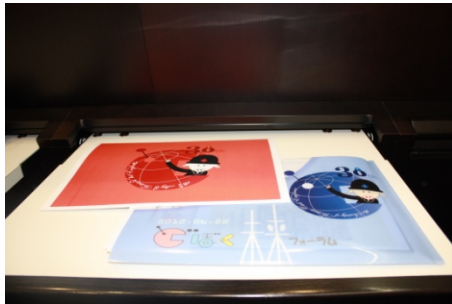
30周年記念総会WGからのメッセージ



想いを感じた3年間

時の過ぎるのが早かった、といったらありきたりだろうか。2011年の開催を目指してイベントに勤しみ、準備の遅れを気にしながらも翌年の開催を心待ちにしていた2010年、開催が延期になった2011年、そして明けて2012年。1年間の猶予ができたと思ったのも束の間、気が付けば開催1週間前、という感じだった。30回目を迎えるから記念となる総会をやろう、という須田さんの発案に始まり、何度か方針の転換もあった。アンケート調査、顔一杯パネルの作成、シンボルロゴの募集と予想を超えるたくさんの応募、中村医師やパネリストのみなさんとの出会い、プレスリリース、記念イベントグッズの作成、交流会での景品の手配にチラシの作成など、みんな頑張ったね。イベント前夜までパネルの追加やもろもろの準備、最後は東大の桑野研、生産研のみなさんまで巻き込んでの、本当にたくさんの人の力を得た記念イベントであり、総会だった。30年の歴史も一人ひとりのそれぞれの想いがあるって始まったのだと思う。悩んでいるのは一人じゃない。同じ様に悩んでとんがって、繋がりあって、この想い、きっとずっと続いていくのだろう。

笹尾 圭哉子

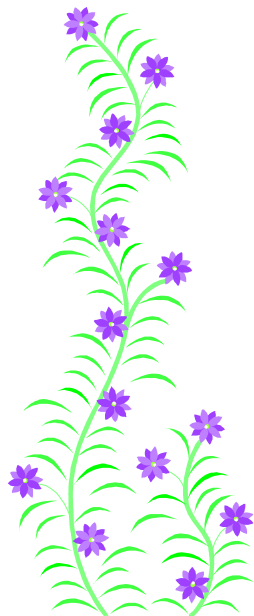


フォーラム・交流会では、多くの方のご協力を仰ぎ、1つ何か形にするという経験をさせていただき、日ごろの業務とはまた違った達成感を感じることができました。直前までは、自分の至らなさばかりが感じられ、無事に開催されるだろうかとハラハラしておりましたが、当日続々と集まる参加者の皆さんの姿を目の当たりにし、本当に開催できたんだと実感いたしました。みなさんに本当に助けていただき、会の力を肌で感じるすることができました。

記念総会では、先輩方のお話にも、お仕事や後輩への愛を感じました。たくさん勇気と元気をいただきました。お話から感じたことを、ずっと忘れません。大切にします。

2011年3月に震災があり、今回の30周年イベントは1年延期いたしました。延期を決めた当初は、正直、震災が起きたからこそ、2011年の6月に開催したい気持ちが非常に強かったのですが、2012年に開催できた意味を改めて考えてみたいと思います。

石塚 喜望



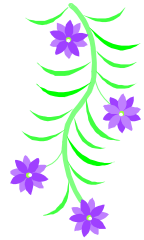
2012年6月22日13時28分、私は下北沢駅前交差点でタクシーを捕まえようと手を振り回しておりました。当初計画では、今頃、東京大学駒場リサーチキャンパスコンベンションホールで「やあ、遅くなってすみません。シフトの変更ができなくて・・・。」など午前中から働いていたはずのWGメンバーに言い訳してるはずだったのに・・・。なぜか、駒場東大前で降り損ねて池ノ上から歩き始めたら、なぜか下北沢駅前商店街のアーケード前に出ちゃったんですよ。なぜか。

一事が万事、この調子でWGの皆様にはご迷惑をお掛け致しました。この場を借りてお詫び申し上げます。ただでさえお忙しい中、すみません m(_ _)m イベント準備期間は、憧れのSサンの仕事っぷりを間近で見れて惚れ直したり、若人たちのピカピカに私も年をとったものだとシミジミしたり、楽しい時間を過ごしてしまいました。アリガトウゴザイマス(=^0^=)

フォーラム終了後、「お疲れ様で～す」をハートマーク付で言ったら、「報告書、まとめることになったので。」と笑顔で返されてしまいました。ガンバリマス(・_・:)

三村 啓子

30周年記念総会WGからのメッセージ



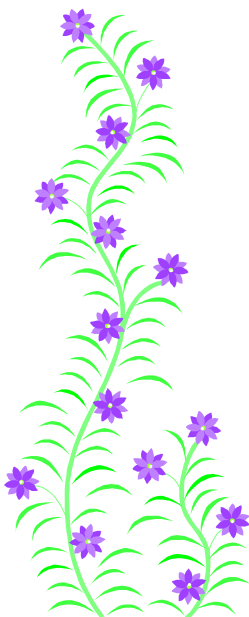
今回の記念総会は企画が目白押しで、本当に参加して良かったです。

本誌にも8~11ページに記事を書きましたが、企画WGも30周年記念WGの一員として、シンボル・ロゴコンペを担当しました。見れば見るほど良いデザインに決まったな〜、と感慨にふけています。表彰式終了後には、受賞者の南部さんからお礼の手紙をいただきました。まだ、デザイン管理マニュアルを作る仕事が残っていますので、もうちょっと頑張らねば！

当日の基調講演は、バリアフリーと密接に関係する土木の仕事と共通点も多く、非常に濃い内容でした。パネルディスカッションは個性的なパネリストの個性的なお話で、これも楽しく、満足しました。会場参加型にし、一体感が出せたのもとても良かった。

準備、段取りに奔走して下さったすべての皆様に感謝です。

牛山 育子



足かけ2年あまりでしょうか。土木技術者女性の会創立30周年記念行事の実現に向けて動き出して以来、わずかばかりではありますが、準備に関わらせていただきました。途中、職場の異動等もあり、直前の時期に十分にお役に立てなかったのが、ただただ心残りです。

私は、企画WGの一員として、シンボル・ロゴの募集・選定の場にも立ち会う機会をいただき、応募者の方の土木に対する意識を知ることができ、また審査員の方々のデザインに対する真摯なご意見を生で伺うことができ、貴重な体験をさせていただきました。

また、23日の記念総会では、当会の創成期の錚々たるメンバー5名のご参加をいただき、パネルディスカッションの座長を務める機会をいただきました。パネリストの方々による、先駆者としてのご苦労、血のにじむようなご努力の数々を淡々と語られるお姿。温かい言葉の中にも叱咤激励をいただいた心境であり、この歴史を引き継いでいくことの重要性を認識し、精神を引き締める貴重な機会となりました。

この二日間、そして準備期間を含めたこれまでの経験は、「どぼく未来宣言」にあるように、まずは土木技術者として、また一人の女性として、そして社会を支える人間として、自ら技術と人間性の研鑽に励むことはもちろん、次世代に伝える努力の継続を忘れてはいけない、と改めて誓うための時間だったと思う次第です。

松本 香澄

準備を含めて2年間、本当におつかれさまでした。あっという間でしたが、ステキな時間を過ごすことができました。このような機会を体験でき、とても嬉しく思います。

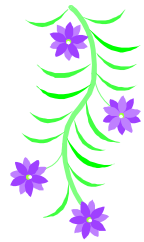
フォーラムでは「未来」という明るい風と一緒に、業界の広がり可能性を感じました。

創立30周年記念総会を「輪」の原稿にまとめようと、何度も音声を書きました。そのたびに涙がこみ上げてきます。人伝に聞いていた「伝説」の裏には、まったく違う思いが隠れていたり、偉大な大先輩方も生の人間で、こんなにも悩みながら生きていたのか?! と当たり前なのにびっくり(←失礼いたしました)。私も子育てとの両立が始まり、やりたいことを100%やりきる時間もなく、もやもやしている自分に少し焦っていました。今回もたくさんのヒントをいただいて帰路に着きました。

キラキラ輝く女性になるためには、やはり人間力を磨かなくっちゃ！力を抜いてみんなでがんばりましょう。

箱田 裕子

30周年記念総会WGからのメッセージ



開催前2週間ほど、日毎にメール量が増え、直前はすざましい量が飛び交っていた。その中で、各自すべきことを的確に進めている。

素晴らしい。

一般参加者申込み状況のお知らせするなかで、数が伸び悩んでいることを伝えると、必ず数日後には多くの申込みメールが届く。勤務先だけではなく、さまざまな場所で声を掛けていることがよくわかる。

素晴らしい。

さて、前日夜、「明日は朝から夜までママはお出かけだからね。ばあちゃんと遊んでね。」と娘に話す。「ダイジョウジョ(大丈夫)」と返ってくる。夜中、寝てはいるものの咳込む。うーん。朝になると8度5分超え。マズイ。即病院へ。

なんとか受付開始前には会場にたどり着いた。すでに準備完了。皆さんごめんなさい。「親の緊張が子供にうつるのよ」とリーダー。ありがたい言葉に感謝。こんな感じで、全く戦力外の存在であったが、普段ない貴重で素敵な経験ができた。皆さんありがとうございました！

佐藤 亜紀子



実感！「継続は力なり」

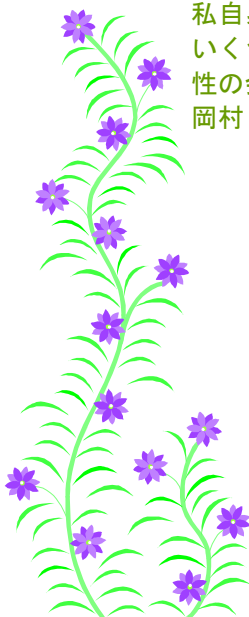
昨年から、土木技術者女性の会と地盤工学会にご協力いただきながら、土木学会ダイバーシティ推進小委員会で書籍「継続は力なり～女性土木技術者のためのキャリアガイド」の編集に取り組んでいる。今回の土木技術者女性の会創立30周年記念「どぼく未来フォーラム」等に参加して、「継続は力なり」を改めて実感した。

タスクチームのメンバーでありながら事前の準備活動にほとんど貢献できないまま、当日の準備に参加した。会場では多くの若手メンバーが設営準備を行っていた。土木技術者女性の会が30年継続してきたことで、多くの若手女性技術者が育ち、今の女性土木技術者たちの活躍につながっている。先輩方がキャリアを継続されたことで、そのポテンシャルが次の世代に引き継がれている。

フォーラム翌日の30周年記念総会後のパネルディスカッション「土木技術者女性の会創成期秘話」でのパネリストの発言「自分が辞めたら足跡が残らないから辞められなかった」という言葉が印象に残った。女性の場合、結婚や出産、子育てなどのライフイベントによって仕事のペースダウンや転職、退職を選択せざるを得ないこともある。それでも、何とかして土木技術者としてのキャリアを継続していくことは自分のためだけではなく後に続く数多くの女性土木技術者のためでもある。

私自身、土木技術者女性の会で知り合った仲間たちからアドバイスや励ましのお陰でいくつもの壁を乗り越え、これまで仕事を続けてこられたように思う。土木技術者女性の会の皆さんに心より感謝申し上げます。

岡村 美好



「いのちを守る土木の未来」という壮大なテーマのもと、「どぼく未来フォーラム」という壮大な名前のフォーラムを開催するということが少し不安がありましたが、たくさんの方々のおかげで、本当に素敵なフォーラムになったと思います。私自身は事前準備の流れについて行くのがやっとなので、桑野会長、須田WGリーダーをはじめ、たくさんの素晴らしい先輩方の熱意のこもった内容を当日に目の当たりにし、パワーをたくさん頂きました。ありがとうございます。それぞれの内容の感想は書ききれませんが、どぼく未来宣言を唱和した際は奮い立たされました。このような素晴らしい創立30周年記念行事のWGの一員にさせていただき、ありがとうございました。

記念総会は、参加できず、本当に悔やまれます。動画配信など期待しております。

小川 由布子

30周年記念総会WGからのメッセージ



二つのことに感動しました。

一つは、各イベント、ディスカッションに参加またはプレゼンされた方々の熱意、ポテンシャルの高さです。私は感動のあまり総会中、秘かに2回涙しました。当日会場で直に感動を味わえて幸せでした。

もう一つは、今回の総会開催までの段取り力の素晴らしさです。準備に携わってこられた役員の方々の皆さま、スタッフの皆さま、見事でした！ 来年総会（中部地区開催予定）にむけて、段取りよく「こと」を運ばなければと、少々プレッシャーです（汗）。たくさんの感動をありがとうございました。

平永 佐知子



4年前の2008年第27回総会（北海道）で、翌々年の第29回は関西地区が担当することが承認されました。普通の順番では第29回：関東、30回：関西の予定だったのですが、「“30”という切りのいい開催回なのでぜひ記念イベントを盛り込んだ内容とし、多くが参加しやすい関東地区で」という、関西地区からの提案を受けていただいたのです。それ以降タスクチームによる準備が始まり、どんどん提案され揉まれていく企画にワクワクしながらも「エライ大きいことになってしまった」、と、どこか申し訳ない想いでおりました。

東日本大震災のため“30回”での実施はかないませんでした。そこでも臨機応変に北海道・中部地区ともに急遽総会開催を名乗り出てくださったこと、そして、30周年総会で記念事業が無事にそして盛大に開催できたことに、当会の人材の豊かさと底力を改めて強く感じた次第です。会の宝；創成記メンバーのお話はまだまだ聞き足りない…少人数ずつにしてシリーズ化、なんていかがでしょう？

皆さま、本当にお疲れ様でした。どうもありがとうございました。

三好 葉子

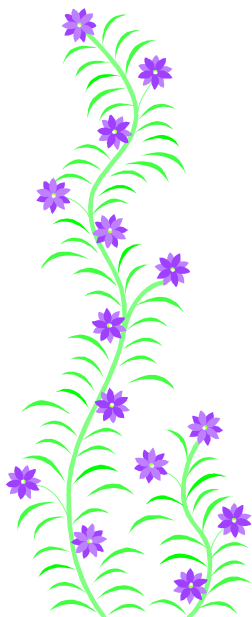
私は、会場展示用パネルの作成（一部）を担当しました。

修正が前日のぎりぎりまでかかってしまい、周りの方々にご迷惑をおかけしましたが、みなさまの力強い結束に支えられ、当日、無事に展示することが出来ました。

関係者のみなさま、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

しかし、こんなに立派になるとはっ！会場で完成品を見て感動しました。

中根 友理



プレイベントから始まり2年間。沢山の方の思いとご協力で素晴らしいイベントとなりました。プレスリリース、シンボル・ロゴの公募などもあり、会の内外の方の力が結集してこんなにも大きなことが実現できたことは大きな喜びです。どぼく未来フォーラムの企画検討の際に頭に浮かんだのは、男女に限らず「聞いてよかった」と思われるような内容にしたいということ。テーマを「いのちを守る土木の未来-土木の原点を考える-」と決めた後から、準備の流れがスムーズになったように感じます。

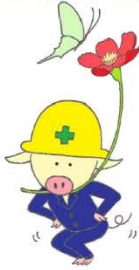
当日は、会場も満席。かつ大変濃い内容で、土木技術者としての「根っこ」の部分を見つめ直すよい機会になりました。次の日の「土木技術者女性の会 創成期秘話」パネルディスカッションでは、あらためて先輩方の苦勞と会員同士のつながりに感激。「とにかく続ける」という言葉は、今も心に残っています。土木技術者女性の会で、いろいろな方の多彩なパワーに触れ、つながりを持つことが私の明日の元気になります。この思いとつながりを次の世代の方々にも広げていけるよう、今後も活動していきたいと思えます。ありがとうございました。

龍 尊子

当日展示パネル

土木技術者女性の会
関連記事

当日展示パネル




土木技術者女性の会


The Society of Women Civil Engineers

- Since 1983 -

土木技術者女性の会は、土木学会誌（1982（昭和57）年9月号）の誌面で企画された「女性土木技術者の座談会」における「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」との呼びかけをきっかけに、1983（昭和58）年1月に約30名で発足しました。



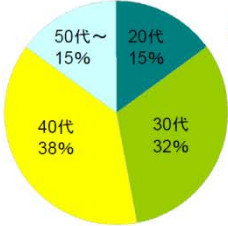
● ● 第1回総会（1983年1月） ● ●



● ● 土木技術者女性の会発行「Civil Engineerへの扉 2006年版」より ● ●

現在では、全国各地に約170名の会員がいる任意団体として、他の機関と連携しつつ多様な活動を進めています。会員は全国4地区のいずれかに所属し、地区活動に参加します。また役員会及び役員会を補佐する事務局により会全体の活動方針などを企画・提案しています。

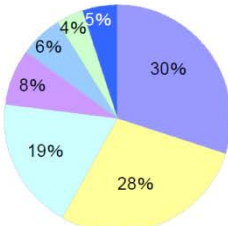
● ● 年齢構成 ● ●




年齢層	割合
20代	15%
30代	32%
40代	38%
50代~	15%

● ● 会員構成 ● ●

2012年4月現在 172名



所属	割合
建設会社	30%
コンサルタント	28%
官公庁	19%
公益民間	8%
学校	6%
学生	4%
自営ほか	5%

創立30周年記念総会行事  フォーラム 2012.6.22（金）

土木技術者女性の会 URL: <https://womencivilengineers.com/> お問い合わせ先: webmaster@womencivilengineers.com

(c) 2010 土木技術者女性の会 / The Society of Women Civil Engineers



会の目的

土木技術者女性の会は、女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次の5つの目標を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上、
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

会の活動

土木技術者女性の会は、毎年開催される総会や見学会、セミナー、勉強会などの地区活動に参加しています。これまでに道路や地下通路、風力発電施設、ダムなどの建設現場などの見学会を実施しました。最近では土木学会や地方自治体、大学、高等専門学校との連携により、女子学生を対象としたキャリアセミナーを開催し、好評をいただいています。

また、会員からの相談に応え、労働基準法の坑内労働規制の緩和に取り組み、長年、女性がトンネル工事に従事したり、あるいは現場に入ったりすること自体を妨げていた法律の改正を実現しました。



会からの発信

会誌「輪」(りん)は、会の設立当初より発行されている会誌です。現在は年2回、電子版が発行されています。会の活動の報告、会員による寄稿などから構成されており、身近に仲間やロールモデルのいないことが多い女性土木技術者の貴重な情報源となっています。

「Civil Engineer への扉」は、土木技術者を目指す女子学生向けに出版した冊子です。約20名の会員が、女性土木技術者としてのロールモデルと、女子学生へのメッセージを紹介しています。現在、1999年版、2006年版を販売しています。



会誌「輪」



「Civil Engineerへの扉」

会の歩み



- | | | |
|-----------------|---|----------|
| 1983年1月 | 第1回総会(東京) | |
| 1983年5月～1988年5月 | 第2回総会～第7回総会を東京、名古屋、大阪で開催 | |
| 1989年6月 | 第8回総会(富士宮) | |
| 1990年6月 | 第9回総会(富士五合目) | 会長 寺本 和子 |
| 9月 | 土木学会年次総会記念シンポジウム参加協力 | |
| 1991年6月 | 第10回総会(大阪) | |
| 1992年5月 | 第11回総会(伊東) | |
| 1993年5月 | 第12回総会(岐阜) | |
| 1994年5月 | 第13回総会(東京) | |
| 1995年11月 | 第14回総会(広島) | |
| 1996年5月 | 第15回総会(札幌) | 会長 正木 啓子 |
| 1997年5月 | 第16回総会(東京) | |
| 1997年11月 | 中部建設青年会議・土木技術者女性の会主催
“女性建設技術者に関するシンポジウム<建設業に女性の元気を取り入れよう>”開催 | |
| 1998年10月 | 第17回総会(名古屋) | |
| 1999年3月 | 女子学生就職支援パンフレット
「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ-Civil Engineer への扉」
1999年版発行(東京女性財団の助成事業) | |
| 1999年7月 | 日本学術会議・日本女性科学者の会・日本女性技術者フォーラム主催
「第11回国際女性技術者・科学者会議(iCwes11)」参加協力 | 会長 所 靖子 |
| 1999年10月 | 第18回総会(淡路島) | |
| 2000年9月～2001年1月 | 土木学会中部支部主催“平成12年度市民ゼミナール
「なるほど！なっとく！土木のはなし-土木技術に触れてみませんか？」”開催協力 | |
| 2000年10月 | 第19回総会(登別) | |
| 2001年6月 | 第20回総会(横浜) | |
| 2002年6月 | 第21回総会(名古屋) | |
| 2003年6月 | 第22回総会(大阪) | |
| 2004年6月 | 第23回総会(ニセコ) | |
| 2005年6月 | 「女性の坑内労働の禁止規定の見直し」に関する要望書を
(社)日本建設業団体連合会、(社)日本経済団体連合会を通じて政府に提出 | |
| 2005年6月 | 第24回総会(名古屋) | 会長 佐藤 厚子 |
| 2006年4月 | 女子学生就職支援パンフレット
「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ-Civil Engineer への扉」
2006年版発行(平成17年度東京ウィメンズプラザ民間活動助成事業) | |
| 2006年6月 | 第25回総会(東京) | |
| 2007年6月 | 第26回総会(京都) | |
| 2008年6月 | 第27回総会(札幌) | |
| 2009年6月 | 第28回総会(名古屋) | |
| 2010年6月 | 第29回総会(大阪) | 会長 桑野 玲子 |
| 2011年9月 | 第30回総会(札幌) | |





坑内労働規制緩和に向けた活動

知っていますか？男性と同様に、

女性もトンネルに入れます

2007年4月1日より

女性の坑内労働の原則禁止が緩和されました

改正労働基準法の趣旨：

女性の坑内労働については、これまで、肉体的、生理的に特殊性を持つ女性にとって適当な労働とはいえないとされ、改正法による改正前の労働基準法第64条の2において原則として禁止されてきたところであるが、施工技術の進歩、法規制の充実等に伴い、安全衛生技術が向上していること、また、**規制緩和の要望***がなされていたことを踏まえ、坑内労働の原則禁止を改め、女性技術者が坑内の管理、監督業務等に従事することができることとしたものであること。(厚生労働省HPより)

※土木技術者女性の会は、「女性の坑内労働の禁止規定の見直し」に関する要望書を日本土木工業協会、日本建設業団体連合会、日本経済団体連合会を通じて、政府へ提出

改正前：臨時的入坑のみ許容(医師、看護師、取材、研究の業務)



改正後：**「女性」の坑内労働の禁止規定は撤廃**

- 妊娠中の女性が行う業務
 - 坑内で行われる業務に従事しない旨を使用者に申し出た産後1年を経過しない女性が行う業務
 - 女性に有害な業務として厚生労働省令で定める業務(作業員の業務)
- を除き、**女性技術者が坑内での管理、監督等坑内労働に従事することが出来るようになりました**



現場見学会・勉強会



地区活動
 山下長津田線（横浜市）
 街路整備工事見学会
 2009.7.25 関東地区

入社3年目の若手会員が企画した見学会。

地区活動
 圏央道裏高尾橋工事見学会
 2010.7.31 関東地区

2007年12月、2009年12月、
 2010年12月と計3回の現場見
 学会を実施。毎回、多くの会員
 および女子学生が参加しました。



土木技術者の会 関東地区主催 2010年度見学会

首都圏中央連絡自動車道 裏高尾橋工事

【首都圏中央連絡自動車道 関東地区主催】
 関東地区 2010年7月31日

7月31日（土）「首都圏中央連絡自動車道 裏高尾橋工事」現場見学会を開催いたしました。2009年12月、2009年12月見学会から1年経ち、現場での作業の様子もだいぶ変わりました。当日の様子を写真でご紹介します。

- 日時：2010年7月31日（土） 13:30～17:00 雨決行
- 集合場所：事務所 13:30 裏高尾橋 出入口付近（13名のバスに乗車します）
- 参加対象：土木技術者の会関東地区 関東地区土木技術者会（18）関東地区 土木技術者の会（関東地区土木技術者会）
- 参加費：無料
- 申込先：JTB/03(03)63600001/102100001/008（国）（要予約）
- 申込締切：2010年7月23日（金） 申込締切後、申込人数に不足する場合は、申込人数に応じてキャンセルとなります。
- 当日：13:30～17:00、集合～解散、昼食～15:00、見学会、15:00～17:00、解散
- 当日服装：作業服（作業服は各自持ち込み）
- 当日持ち物：飲み水、タオル、帽子、雨具、雨具は各自持ち込み

200712 1 建設現場見学（橋）
 建設現場見学（橋）
 建設現場見学（橋）

200912 2 建設現場見学（橋）
 建設現場見学（橋）
 建設現場見学（橋）

土木技術者の会関東地区主催 2010年度見学会
 土木技術者の会関東地区主催 2010年度見学会
 土木技術者の会関東地区主催 2010年度見学会





女子中高生夏の学校

女子中高生夏の学校
2011
国立女性教育会館(嵐山)
2011.8.18

「ポスターセッション・キャリア相談ブース」に参加し、ポスター展示、「Civil Engineerへの扉」無料配布を行いました。



女子中高生夏の学校
2011
土木学会(四ツ谷)
2011.8.18



2011年度は1日での開催。学生会員も説明員として参加。女子中高生の皆さんが、熱心に説明を聞いてくれました。





会員の声



石塚 喜望 さん

鹿島建設(株)
東京土木支店
土木部 技術グループ

①会に期待していること
横にも縦にもつながりを広げること。特に、学生さんとうつながりたいです。(欲を言えば、中高生から。)

②会に入ってよかったこと、勉強になったこと
たくさんあります。本当はこれからもっと大変なことがあるかもしれないけれど、とりあえずできることまでやってみよう!と思う気持ちを、もらえること。女性が働く意味や、集まる意味などについて考えるきっかけをもらえること。学生さんとうつながれること。他業種から講師をお招きして、お話をうかがえたこと。大変刺激になります。

③今後の土木に女性目線から期待することなど
今後の土木に期待することはもっと明るく楽しく元気のよい業界でありたい!ということです。



佐藤 希絵 さん

(株)不動テトラ
地盤事業本部 技術部
第一研究室

①会に期待していること
幅広く多くの方とお話できればと思っています。

②会に入ってよかったこと、勉強になったこと
様々な分野で働く女性とお話できたことです。最初は緊張したのですが、先輩方の仕事への姿勢や子育てのお話等、伺う機会があり、とても勉強になりました。ぜひまた伺いたいです。

③今後の土木に女性目線から期待することなど
性別に関係なく、ライフイベント毎に働き方を選択できる業界になればと思います。



広野 彩 さん

大成建設(株)
関西支店
住之江雨水滞水地作業所

①会に期待していること
女性技術者の存在価値を、もっとアピールして行ければ、と思います。女性の社会参画が進んだと言われるますが、この業界はまだです。会社は「女性の目線での管理を期待する」と言いますが、その言葉とは裏腹に、望んでいるのは『女性の男性化』です。そんな意識では、この業界に女性は残りません。女性こそ、あらゆる選択肢やワークスタイルがあり、各自を活かせる業界になって欲しいものです。その責の第一歩を担うのが、この女性の会であると期待しています。

②会に入ってよかったこと、勉強になったこと
見学会等で、同業の女性と交流できるのは、良い刺激になります。また、この業界の仕事の話で盛り上がる女子会はここだけ!

③今後の土木に女性目線から期待することなど
今尚、東北での災害復旧が続いています。災害復興で、建設業の力がお役に立っていることは、大変誇りに思っています。災害復興だけでなく、土木の様な公共の利益であるインフラを整備する業務において、女性の管理能力が発揮されれば、もっと国民の皆さまに理解されるのではないのでしょうか。それは案件の立案から施工までの、全ての過程において言えると思います。女性の『他人の意思や気持ちを汲み取る力』は、今までの土木業界になかったもののひとつです。この能力が重宝される業界になることを期待します。そして、女性技術者を雇用・指導する役割に在る方々が、それに早く気付くことを切に願います。



小川 由布子 さん

広島大学大学院
工学研究院 助教

①会に期待していること

幅広いネットワークの構築です。先輩方の経験を伺ったり、同世代の方々との近況を話してみたり、学生さんたちを横にも縦にもつなげたりできるといいなと期待しています。

②会に入ってよかったこと、勉強になったこと

学生時代に、とにかくたくさんの人と会って話を伺うこと、たくさんモノを見て勉強することを目的として入会致しました。期待以上によかったこと、勉強になったことにつながっていると思います。さらに、同期(入社?)という人たちが働く場所にいないので、同世代の方々が他分野でも頑張っていることをこの会を通じて感じ、自分も頑張らなくてはいけないというモチベーションにつなげさせて頂いています。

③今後の土木に女性目線から期待することなど

土木に期待することとなると、自らが目指すところとなりますが、個々の場所でそれぞれが誇りを持って働いていける業界を目指すと共に、個人個人の技術を結集して社会に貢献する土木のすてきなアピールしていける業界であることを期待します。

土木技術者女性の会 関連記事

朝日新聞 2012.09.07

理系の女子学生 「リケジョ」人生の方程式

土木業界の先輩に聞く

理系の女子学生「リケジョ」が増え、企業でも女性技術者が当たり前になるようになっています。ただ、仕事と私生活の「自己実現」には壁もあります。どう乗り越えればいいのか。今年発足30年目を迎えた交流団体「土木技術者女性の会」メンバーの歩みからヒントを探りました。

ゼネコン大手・鹿島の須田久美子さん(52)は、同社で初の女性現場管理職だ。首都高快速道路が発注した中、中央環状品川線の五反田出入口工事事務所で副所長を務める。

大学で土木工学を学び、1982年に入社。現場の仕事を選んだが、研究所に配属された。男性の同僚が数年で異動する中、在籍は22年に及んだ。「進めば22年経たない」と上司に訴え、2005年に現場に近い設計部門に移った。そこで長年の研究が役に立った。高速度道路の橋の設計で新工法を提案したのが認められ、ついにその現場に配属。「大切なのは夢

「男社会」では、時代に合わないルールも残る。女



地下空間が鹿島の須田久美子さん(中央)の仕事場だ。高速度道路の出入り口をつくる工事事務所の副所長として現場を束ねる。東京都品川区

22年夢あきらめず ■ 仲間と声あげ改革

性の坑内労働は、86年の男女雇用機会均等法施行後も労働基準法で禁止され、工事中のトンネルに入れないな

「女性の会」の自治体職員らが「工事発注者として困る」と声を上げ、事務局長だった須田さんらが業界団体や厚生労働省に実情を伝えた。こうした働きかけもあり、07年に規制は緩和され、女性技術者の活躍の場が広がった。

仕事と子育ての両立は、多くの働く女性に共通の悩み。女性の会では、さまざまな情報や経験を共有してきた。

岩熊さんの場合、参考にしたのは会議に載った省庁職員の子育て記。「産休明けに保育園がなく、近所の優しい女性が子を預か

ってもらう約束をした」とあった。働いていると子は持てないと思っていたが、考えを変えた。子育てのため実家近くへ二世帯住宅に住んだ経験がある鹿島の知的財産部長、天野玲子さん(58)は、後輩たちにこうアドバイスする。「今は社内外にいろいろなやり方をした先輩たちがいる。自分に合うケースを参考にしは

工学系志願 35%増

「リケジョ」は年々増えている。河合塾が大学入試センター試験の自己探点を提出した受験生の志願先を調べたところ、今春の国立大入試(前期日程)で工学系を志願した女子は約8400人で、5年前より35%増えた。企業の関心も高まり、法政大の調査では、今年1月時点で理系女子の就職内定率は93%で、理系男子(82%)を上回った。

「女性の会」のように交流したり、若手の社会人や学生に「お手本」を示している動きも広がっている。表。講談社が10年に始めた中高生向けサイト「Rikejo」は会員が約1万3500人に達した。会員から「将来を決めるヒントになった」といった反響があるという。女性のキャリアに詳しい福沢恵子・昭和女子大特命教授は「業士など以前から理系女性が多い分野以外でも管理職になる女性が出て、手本を見つげやすい時代になった」とみる。ただ、今も中小企業などでは出産すると仕事を続けにくいといった壁もあり、「多くの女性が多様な解決法を示していくことが大切。結果として『数が力』になる」と話す。(林美子)

- ◆科学技術振興機構
ロールモデル(手本)集「理系女性のきらめく未来」で、大手電機メーカーなどで働く83人を紹介。<http://www.jst.go.jp/gender/>
- ◆研究・技術計画学会女性エンジニア活生分科会(JWSE)
女性技術者が能力を発揮できる環境づくりの研究発表など。<http://jwse.fem.jp/>
- ◆日本女性技術者フォーラム(JWEF)
分野を越えた交流や研修、調査研究など。<http://jwef.jp/>
- ◆女性技術士の会
女子中高生らが科学技術に親しむ機会をつくり、理系女子学生と交流。<http://www.pej-lady.org/>
- ◆理系女子応援サービスRikejo
講談社が運営する会員制(無料)の中高生向け進路相談。働く理系女性のレポートや先輩リケジョによる相談なども。<http://www.rikejo.jp/>

リケジョを応援する団体プロジェクト



左が桑野会長

女性土木エンジニアが中心になり活動してきた土木技術者女性の会（会長・桑野玲子東大准教授）は22日、東京都目黒区の東大駒場リサーチキャンパスで創立30周年記念「どぼく未来フォーラム」を開いた。

浅川智恵子日本アイ・ピー

土木技術者女性の会 創立30周年で未来フォーラム

「・エムIBMフェローが基調講演。自ら開発した音声WEBブラウザなどを紹介しながら、障害者が情報技術へアクセスすることで大して、とした。そのした。

農に貢献してきたが、バブカさを求めることを提案し、2000年以降から市街地の未来については「建設からメンテナンスで、その時代に合わせてインフラは変化し、その改良が課題として出てくる。今は3800万円の事業費を持つNPOになっているが、3年後には2億円に拡充する」として、

「建設からメンテナンスで、その時代に合わせてインフラは変化し、その改良が課題として出てくる。今は3800万円の事業費を持つNPOになっているが、3年後には2億円に拡充する」として、

土木学会 山本前会長 改良の中に知恵生かすべき

が課題として出てくる。今は3800万円の事業費を持つNPOになっているが、3年後には2億円に拡充する」として、

後、桑野会長を司会に浅川氏、山本卓朗土木学会第99代会長（前会長、鉄建顧問）、木村亮京大教授によるパネルディスカッションが行われた。

山本前会長は、土木は社会資本整備を通じて経済発展を促すことが重要だと述べ、特に東日本大震災以降、科学技術の信頼性が揺らぐ中で、「わたしたち技術者は社会安全システムの再構築を強く進めるべき」として、社会安全には、市民、設計者、事業者の3視点からアプローチし、精神的豊かさを求めることを提案した。また、日本の土木プロジェクツトの未来については「建設からメンテナンスで、その時代に合わせてインフラは変化し、その改良が課題として出てくる。今は3800万円の事業費を持つNPOになっているが、3年後には2億円に拡充する」として、

国内がダメならすぐ海外というわけではない。土木技術の持つ総合性は、その変化に対応できるもので、知恵を広げること未来を開いてほしい」と会場の参加者と呼び掛けた。

木村教授は、世界13カ国で会員175人。

意見・提言

ダイバーシティ・マネジメント 組織戦略としての取り組みを

公益社団法人土木学会
教育企画人材育成委員会
ダイバーシティ推進小委員会
委員長
山梨大学大学院准教授
岡村美好
Miyoshi Okamura



二〇一二年度土木学会認定土木技術者資格制度のポスターにはヘルメットをかぶった女性技術者の写真がある。ある建設会社は海底トンネルで働く女性技術者を主人公としたアニメーションCMやポスターを制作し話題となっている。

『土木学会誌』（一九八二年九月号）に特集「女性土木技術者登場」が掲載されてから三〇年、二〇〇四年に土木学会に男女共同参画に関する委員会が発足してから八年が経ったことを思うと感慨深いものがある。

土木技術者女性の会

前述の『土木学会誌』の特集に登場した女性

たちが立ち上げた「土木技術者女性の会」は今年創立三十周年を迎えた。創立時に約三〇名だった会員数は、現在は約一七〇名となった。この会は土木学会の組織ではなく、女性土木技術者たちが任意団体として手弁当で運営してきた団体である。

各地で孤軍奮闘している女性たちのネットワークをつくり、互いに励まし合い、働きやすい環境づくりに取り組んできた。労働基準法の改正にも取り組み、二〇〇六年には坑内における労働規制の緩和を実現した。これによって、女性土木技術者がトンネル工事の現場管理・監督業務に就くことができるようになった。また、

多様な女性土木技術者の生き方を紹介する冊子「Civil Engineerへの扉」を作成し、土木を学ぶ女子学生対象のキャリアセミナーも開催した。

今年六月には創立三十周年記念イベント「どぼく未来フォーラム」を開催（来場者約二二〇名）した。「誰もが参加できる社会を目指して」と題した浅川智恵子さん（日本アイ・ビー・エム株式会社）による基調講演の後、「『いのちを守る土木の未来』—土木の原点を考える—」をテーマにパネルディスカッションを行い、最後には桑野玲子会長と会場が一体となって「どぼく未来宣言」を読み上げた。

この会の存在なしには今の女性土木技術者た

ちの活躍はないといっても過言ではないだろう。筆者もこの会の会員であり、ここで知り合った仲間から得たアドバイスや励ましによっていくつもの壁を乗り越えてきたように思う。

土木学会としての取り組みへ

土木学会では、二〇〇四年にアメリカ土木学会初の女性会長となったパトリシア・ギヤロウエイ氏の来日があきつかけとなってジェンダー問題検討特別小委員会が発足した。その後、名称を男女共同参画推進小委員会、ダイバーシティ推進小委員会と変えて今に至っている。

これまでに、問題抽出のための法人会員アンケートの実施や啓発のためのダイバーシティフォーラムなどの開催、土木学会全国大会での一時保育サービスの働きかけなど行ってきた。それらの成果として、二〇〇八年には土木学会の中期目標と活動計画である「JSCCE 2010—社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力—」の重点目標の一つとして男女共同参画の推進が取り上げられた。

今年一月の理事会ではダイバーシティ担当副会長が選任された。これまで女性土木技術者たちが自助努力として行ってきた男女共同参画に土木学会が組織として取り組むことになったといえよう。

女性土木技術者の現状

土木学会の今年五月末現在の女性会員数は正会員八五八名、学生会員五一三名である。比率では、正会員は約三%とまだまだ少ないが、学生会員は一一%を超えた。

二〇一一年三月末の数字では土木学会女性会員の過半数が三〇歳未満である。各種制度が整ってきたとはいえ、出産や子育ては女性技術者にとって高いハードルである。若手女性土木技術者が結婚・出産後も仕事を継続することは女性技術者の増加に直結する。支援を必要とする技術者の数は今後も増大していくのだ。

若手技術者を応援する「継続は力なり」

そこで、土木学会は昨年から土木技術者女性会と地盤工学会のご協力の下、書籍『継続は力なり—女性土木技術者のためのキャリアガイド—』の編集に取り組んできた。その内容は女性土木技術者のロールモデルの紹介、職場や家庭で直面する様々な壁を乗り越えるためのヒント、土木技術者女性の会・地盤工学会・土木学会の会長たちの男女共同参画への決意、そして、男女共同参画に関連する各種情報をまとめた資料編である。若手女性技術者だけでなく彼女たちを支援する方々や若手男性技術者にも活用し

ていただけるものとなっている。

新たな一歩を踏み出すために

大手建設会社などでは、人材の確保の必要性やCSRにおけるメリットの観点から男女共同参画やダイバーシティ推進関連の部署を設置し始めているが、また土木業界全体の動きにはなっていない。

ダイバーシティは「多様性」と訳される。性別や年齢、人種、身体障害の有無だけでなく、国籍、宗教、価値観、生き方、考え方などの違いも多様性の対象とされている。例えば、女性でも既婚・未婚、子供の数、子育ての環境など、状況は一樣ではない。これは男性も同じことで、父子家庭、仕事中心の人もいれば育児に積極的に関わる「イクメン」など、多様性に富んでいる。ダイバーシティ・マネジメントは、それらの違いを受容し強みとして活かしていくための仕組みづくりを組織として行うこと、すなわち組織戦略である。その実現のためには組織のトップからのメッセージの発信や組織内での問題認識の共有、少数派の人々の意見も取り込んだ意思決定の仕組みなどが必要であると言われている。土木業界が新たな一歩を踏み出すためには、ダイバーシティ・マネジメントの実現が不可欠ではないだろうか。

意見・提言

2012年8月号

特集2 ● — 学ぶ・働く 理系女性のミカタ

土木技術者女性の会
30周年、働きやすい環境づくり、地位向上の活動も

桑野 玲子 Profile・過去記事
(くわの・れいこ)

土木技術者女性の会 会長
東京大学 生産技術研究所 准教授



⇒ 関連リンク

特集2: 学ぶ・働く 理系女性のミカタ

・ [機械系女性エンジニアの育成とネットワークづくり
—日本機械学会Ladies' Association of JSMEの活動—](#)

→ [その他関連リンク](#)

土木の世界で女性がまだ珍しかった時代に、情報交換の場として発足した「土木技術者女性の会」が30周年を迎える。小さな努力を重ねるうちに大きな力が育ち、働きやすい環境作りなど対外的な活動にも本格的に取り組めるようになった。

土木工学 (Civil Engineering) は、文字通り、市民の基本的な生活を整えるための工学で、その歴史は古い。文明をさかのぼると、そこには常に何らかの土木技術の痕跡が見つかるであろう。しかし、それほど古くから人々の生活に密着した分野でありながら、女性技術者が活躍するようになったのは比較的最近である。

◆ 情報交換できる場

土木技術者女性の会は、土木の世界で女性がまだ極めて珍しかった1983年に、女性土木技術者同士を結ぶネットワークとして自発的に発足した。当時は、各大学の土木工学科において、女子卒業生が学科開設以来いるかいないかといった状況であったと思う。土木学会誌で女性技術者の座談会が催され、そこで意気投合した有志が“日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような場を作りたい”と参加を呼び掛けたのがきっかけである。初回の会合には全国から約30人が集まり(写真1)、会の基本的な体制を整えたほか、活動目的として次の5つを掲げた。

- ① 土木界で働く女性技術者同士の励ましあい
- ② 土木界で働く女性技術者の知識向上
- ③ 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
- ④ 女性土木技術者の社会的評価の向上
- ⑤ 土木技術者を目指す女性へのアドバイス



写真1 第1回総会(1983年)

北海道、関東、中部、関西の4地区を設定し、地区ごとに勉強会や見学会などを開催し、会員相互の交流を深めた。年1回の総会は各地区持ち回りで実施している。会合の内容は何であれ、メールもインターネットも無いころ、仲間と顔を合わせ言葉を交わすこと自体に意味があった。当会は従来積極的に広報に努めてきたわけではなかったので入会希望者は会員の口コミや紹介によるものが多いが、1990年代に入り各企業で女性技術者の採用が増え始めたのに伴い、会員数も伸び、最近では150~200名位で推移している(図1)。

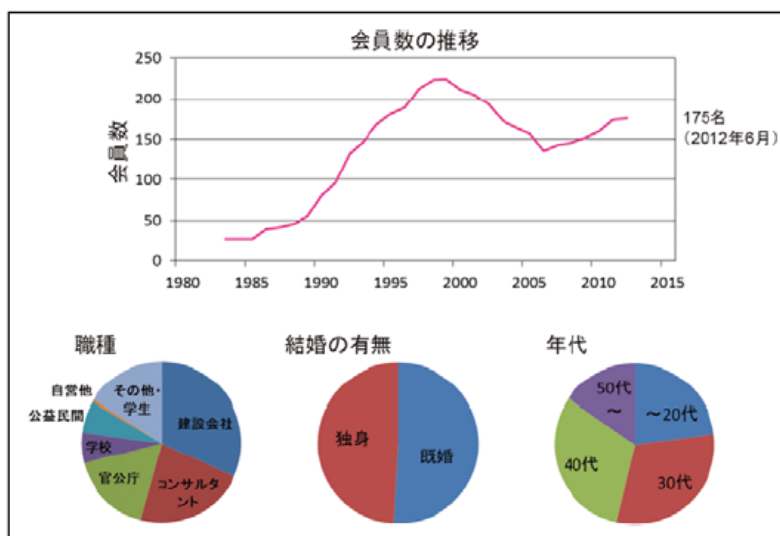


図1 会員数の推移と現在(2012年6月)の会員の構成

◆ 求められるロールモデル

土木の業界では、これまでに何度か女性支援の機運が盛り上がった時期がある。その1つは、男女雇用機会均等法が施行され、それぞれの分野で女性の活用が叫ばれたころである。折しもバブル期の好景気の中で、土木分野は「きつい」「汚い」「給料が安い」の3Kとさげすまれ、このままでは土木から優秀な人材が遠ざかってしまうという危機感から、業界を挙げてイメージアップに躍起になっていた。女性技術者の登用はその一環とも言え、大手建設会社では次々に技術系女性総合職の第1号が誕生した。女性が活躍できる環境をアピールすることにより、土木の持つ保守的で閉鎖的なイメージを払拭(ふっしょく)するという狙いがあったと思われる。その他にも、建設現場の見える化が図られたり作業服のデザインがおしゃれになるなど、各所でさまざまな工夫が凝らされた。

しかし、各組織に散らばる女性技術者の“孤軍奮闘”度合いはそうすぐに改善するものではなかった。土木に限らず全ての少数派グループに共通して当てはまる課題として、ロールモデルの不在が挙げられる。身近にお手本となるような先輩がいない、愚痴をこぼせるような同僚がいない、という状況が、孤独感や無力感を増幅させる要因となりかねない。土木技術者女性の会には、さまざまなスタイルの技術者がいるので、当会でそのようなロールモデルと接しているうちに、気が楽になり、何とかかなりそうと前向きな姿勢になることも多い。当会の本質的な役割はそのようなところにあり、会が擁する多様な人材こそが、会の宝であり会員サービスの源なのである。

◆ 女子学生へメッセージ

このように、会員同士の交流による相互啓発を主な活動としていたが、対外的な働き掛けへも力を注ぐ余裕が徐々にできてきた。その1つの例が1999年と2006年に発行した「Civil Engineerへの扉」という女子学生のための就職支援パンフレット(図2)である。そこでは、会員がそれぞれの仕事内容を紹介し、キャリアメイクのポイントや女子学生へのメッセージをつづっている。一口に土木技術者といっても、その仕事の範囲は広く多様で、自分なりのやり方で貢献できる場や選択肢はたくさんあるというのが最も伝えなかったことである。

現在、大学や高等専門学校の土木系の学科の女子学生比率は1割から2割程度に達する。人々が日々安全で快適に暮らせるよう社会基盤や都市環境を支え守っていくという身近な問題が使命であることを考えると、土木を志そうと思う女子学生が増えてきたのは自然の成り行きであろう。

しかしながら、彼女たちが卒業して社会に巣立つ時には、依然として厳しい就労環境に直面し戸惑うことが多いようである。当会で地区ごとに開催している就職セミナーや女子学生との交流会、見学会などでは、地区を越えた遠方の女子学生が参加する例もあり、職業を選択する際に真剣に自分の将来を考え情報収集しようとする姿勢がうかがえる。彼らに土木の仕事の使命と意義を正しく伝え、自分の選ぶ仕事に誇りを持ってもらうための手助けをするのも会の重要な役割と考えている。

また、一般の人へも、人々が安心して暮らせる国土をつくりそれを維持するために土木技術者が陰ながら貢献していること、貢献の範囲は広く多様であること、志があれば男女を問わず活躍の場があることを理解してもらう努力がますます必要だと思ふ。



図2 女子学生のための就職支援パンフレット

◆ 創立30周年で未来宣言

土木技術者女性の会は、創立30周年を迎える。土木界の超少数派の30人でスタートした小さな会が、多忙な本務の傍らそれぞれの会員ができる範囲の小さな努力を積み重ねるうちに、いつのまにか大きな力に育っていた。創立当初は前述の活動目的①②について懸命に模索していたのが、今では③④⑤についても本格的に取り組めるようになっていく。先日、当会の30周年記念イベントとして土木の原点を振り返り未来を考えるフォーラムを開催した(写真2)。そこでの結論を1つの決意の形に表し、今後の会の展望として、どぼく未来宣言を採択した。

「どぼく未来宣言」

土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重大な使命を担っています。

私達土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むと共に、これを次世代に伝える努力を続けます。



写真2 土木技術者女性の会創立30周年記念「どぼく未来フォーラム」2012.06.22

🔗 関連リンク

特集2: 学ぶ・働く 理系女性のミカタ

- ・ [機械系女性エンジニアの育成とネットワークづくり](#)
—日本機械学会Ladies' Association of JSMEの活動—
- ・ [情報通信分野における女子中高生対象の啓蒙活動](#)
—津田塾大学女性研究者支援センターの取り組み—
- ・ [女子中高生のための「サイエンスフェスティバル」](#)
- ・ [産休・育休中もキャリア形成のサポート](#)

経済・社会

「どぼく未来フォーラム」を開催 土木技術者女性の会が創立30周年

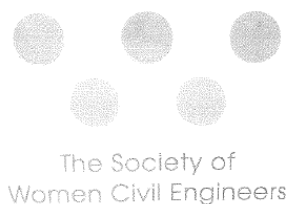
編集部

1. はじめに

土木技術者女性の会（会長・桑野玲子東大准教授）は6月22日、東大駒場リサーチキャンパスで創立30周年を記念し「どぼく未来フォーラム」を開いた。東大生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センターとの共催で、国交省と土木学会、地盤工学会が後援。参加者は約220人を数え、盛会となった。

冒頭、桑野会長が「30人でスタートした小さな会が30年も活動を続けてこられた。これまでの支援への感謝を込めてフォーラムを企画した。土木の原点と将来について一緒に考えたい」と述べ、開会を宣言。

続いて、会のシンボルとなるロゴマークの最優秀作品を発表した。400件を超える応募があり、その中から大阪府在住のグラフィックデザイナーである南部真有香さんの作品が選ばれ、桑野会長から表彰状と副賞が手渡された。受賞理由は「womanの頭文字をモチーフとし、非常にわかりやすい。シンプルで汎用性の高いデザインながら、将来の発展性や可能性を感じさせる。会の目標を5つの円で表現し、コミュニケーションを意識させるイメージも持たせた。オレンジとピンクの暖色系の色使いがうまく、かつ、オレンジの持つ力強さや発展性、元気を思い起こさせ、女性の会を表現するのにふさわしい。一般的にファッショナブルに



会のロゴマークが決まる



最優秀作品賞に選ばれた南部真有香さん（中央）

なりがちな色合いだが、シンプルな造形との組み合わせによって品位が感じられるものになっている」こと。南部さんは「土木の仕事にやりがいと誇りを感じる元気な女性達の姿を円で象徴した。その活力で日本を元気にしてほしい。私はグラフィックデザインを専門にしているが、同じ成長する女性として、より頑張っ



「いのちを守る土木の未来」をテーマに討論

いきたい」と喜びを語った。ロゴマークは今後、会のホームページやリーフレット、名刺などに使用される。

フォーラムではIBMフェローの浅川智恵子さんが「誰でも参加できる社会を目指して」をテーマに基調講演を行ったあと、土木学会の山本卓朗前会長が「いのちと豊かさを守る土木へ」、京大大学院工学研究科の木村亮教授（NPO道普請人理事長）は「自分たちの道は自分たちで直せるという意識を広げたい」と題してそれぞれ話題を提供。この3人がパネリストとなって「いのちを守る土木の未来」について討論した。

浅川さんはスマートフォンやソーシャルネットワークなどを通じて、障害者や高齢者を含めた全ての人が参加できる社会の実現を目指す情報アクセシビリティ技術を紹介。山本氏は土木の総合性に言及し「土木学会の初代会長である古市公威氏は、土木が土木たる所以である総合性を強く訴え、過度の専門分化により土木の本来性が失われることを戒めた」とし、そうした土木の原点を踏まえながら将来への課題を示した。また、木村教授は「人々の暮らしを守り、豊かにすることが土木の原点」だとし、アフリカの貧困削減のため簡易な土木工学を活用して農道整備を行い、成果を上げた実例を紹介した。討論では、女性の会への期待として「働きやすい環境づくり」に努め、「土木の使命と意義を次世代に伝える」ことを確認した。

その後、『どぼく未来宣言』を採択。桑野会長が「土木は、人々の命と暮らしを守り、真の幸福をもたらすという重要な使命を担っています。わたしたち土木技術者は、常に自然災害の脅威に対して真摯に向き合い、それぞれの地域特性と社会特性に適合した自然

と人間の共存のあり方を工夫し、自ら技術と人間性の研鑽に励むとともに、これを次世代に伝える努力を続けます」と力強く宣言し、幕を閉じた。

働きやすい環境づくりを支援

30年の活動を振り返る～桑野玲子会長

当会は、土木学会誌（1982年9月号）で企画された「女性土木技術者の座談会」をきっかけに1983年1月に発足しました。座談会の席上で「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を」ということになり、誌上で呼びかけた結果、約30人でスタートしました。当時、女性の土木技術者はかなり珍しい存在だったと思います。大学の土木工学科でも第1号がいるか、いないかという時代だったでしょう。女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ、対応していくために、独立した団体として活動しており、



桑野玲子会長

1. 土木界で働く女性技術者同士の励ましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

という5つの目的を掲げてきました。基本的には女性土木技術者のネットワーク形成を通して働きやすい環境づくりをめざすことを大きな目的としています。そのため会誌「輪（りん）」を発行し、総会や各地区での懇談会、勉強会などを実施しています。特に積極的に広報活動をしているわけではありませんが、現在175人の会員がいます。職種は建設会社、コンサルタント、官公庁、大学などの教育・研究機関に所属するほか、フリーランスで活躍する会員もいます。

発足当初は自分たちのネットワークづくりを中心に

活動していましたが、そのうち対外的活動にも取り組むようになり、公開シンポジウムや学生向けキャリアセミナーを開催しているほか、雑誌や書籍の編集協力も行っています。これまでの対外活動の最も大きな成果は、坑内労働の規制緩和でした。ある会員から「トンネルの中で女性は働けない。どうにかならないだろうか」という声が寄せられたのをきっかけに、2003年に当会に坑内労働規制緩和WGを設置し、2004年に「坑内労働禁止規制緩和」に関する要望書を経団連へ提出しました。翌2005年に「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律及び労働基準法の一部を改正する法律」が成立し、女性の坑内労働に関する規制が緩和され、女性労働基準規則に、筋肉労働を伴わない、現場の管理・監督業務に女性土木技術者が就業できることが明記されました。このほか、当会では女子学生の方たちに土木の仕事はどういうものか知ってもらいたいと、外部機関の助成を受けて就職支援パンフレット「Civil Engineerへの扉」を作成、配布しています。

当会の一番の財産は多様な人材であり、それこそが会員サービスの源であると思っています。中には自慢したい会員も多数います。一番の自慢は中央環状品川線シールドトンネル工事の五反田出入口工事事務所の副所長である須田久美子さんです。鹿島建設でコンクリートの耐震性と超寿命化を20年以上研究されたあと、大手ゼネコン初の女性現場管理者として活躍され、その実績が高い評価を受けてウーマン・オブ・ザ・イヤー2009（主催＝日経BP社・日経WOMAN）に選ばれました。本当に素晴らしいことです。

これまでの30年のあゆみを振り返ってみると、多少、私見も入っていますが、当会が発足した頃は各組織でバイオニアとして活躍したスーパーウーマンが中心となっていたと思われます。男性優勢社会の中で、自分犠牲を伴いながら、男性に負けず劣らず働く覚悟がお

そらく必要だったでしょう。一方で、当時からコンクリートや土質などコアな土木分野だけでなく、まちづくりや環境関連など境界領域・周辺領域に携わる技術者も多く、土木分野の広がりを予見させました。いくらスーパーウーマンでも、仕事と家庭の両立は、昔も今も変わらぬ問題です。

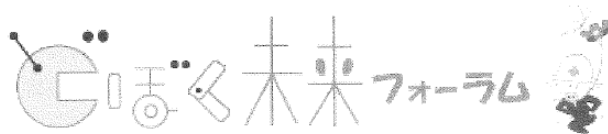


須田久美子さん

しかし、今は周囲の環境や社会も変化し、スーパーウーマンでなくても仕事と個人生活を両方尊重しながら土木技術者として貢献できる時代となりました。ワークライフバランス型の事例（ロールモデル）が当会にもたくさんいらっしゃいます。ただし、これは持論ですが、人間誰しも常に全速力で走れるわけではありません。キャリア形成の中で、仕事を最優先できない個人的事情が生じる可能性もあり、苦しい時はなんとか凌げるようなタフで柔軟な意識が必要です。また、組織にも短期的視野や極端な効率優先主義にとらわれない対応を是非お願いしたいと思います。

当会の役割は、女性土木技術者が働きやすい環境をつくることです。そのためネットワークを形成したり、多様なロールモデルを互いに提供しあうことに努めているところです。同時に、土木の使命と意義を次世代に伝えることも大切な役割です。人々が安心して暮らせる国土をつくりそれを維持するために、土木技術者が陰ながら貢献していることや、その範囲は広く多様であり、志があれば男女を問わず活躍の場があることを様々な活動を通じて一般の方にも伝えていきたいと思っています。なんといっても、女性どうし集まるのは楽しいものです。入っていただければ、わかります。これを機会に共に励ましあい、互いに切磋琢磨しましょう。

当会の役割は、女性土木技術者が働きやすい環境をつくることです。そのためネットワークを形成したり、多様なロールモデルを互いに提供しあうことに努めているところです。同時に、土木の使命と意義を次世代に伝えることも大切な役割です。人々が安心して暮らせる国土をつくりそれを維持するために、土木技術者が陰ながら貢献していることや、その範囲は広く多様であり、志があれば男女を問わず活躍の場があることを様々な活動を通じて一般の方にも伝えていきたいと思っています。なんといっても、女性どうし集まるのは楽しいものです。入っていただければ、わかります。これを機会に共に励ましあい、互いに切磋琢磨しましょう。



土木技術者女性の会 30年のあゆみ

- 1983年 1月 発足会
- 1989年 6月 大沢扇状地遊砂地見学
- 1990年 6月 大沢崩れ崩壊軽減対策調査工事現場見学
- 同年 9月 土木学会年次総会記念シンポジウム参加協力
- 1991年 6月 関西新空港建設現場見学
- 1992年 5月 講演, 研修 (女性土木技術者の現場体験他)
- 1993年 5月 講演, 研修 (最近の河川を取り巻く問題他)
- 1994年 5月 隅田川ウォーターフロント見学
- 1995年11月 シンポ「土木界における女性技術者の活用」開催, 温井ダム建設現場見学
- 1996年 5月 開発局開発土木研究所見学
- 1997年 5月 台場トンネル建設現場見学
- 同年 11月 中部建設青年会議・土木技術者女性の会主催「女性建設技術者に関するシンポジウム～建設業に女性の元気を取り入れよう～」開催 (中部地区主催)
- 1998年10月 あいち健康の森見学・セミナー開催
- 1999年 3月 女子学生就職支援パンフレット「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ : Civil Engineer への扉」発行 (東京女性財団の助成事業)
- 同年 7月 日本学術会議・日本女性科学者の会・日本女性技術者フォーラム主催「第11回国際女性技術者・科学者会議 (iCwes11) 参加協力
- 同年 10月 明石海峡大橋, 北淡町震災記念公園およびジャパンフローラ2000建設現場見学
- 2000年 9月~2001年 1月 土木学会中部支部主催"市民ゼミナール「なるほど! なっとく! 土木のはなし - 土木技術に触れてみませんか? -」"開催 (中部地区協賛)
- 同年 10月 6テーマによる分科会開催
- 2001年 6月 鶴見多目的遊水地 (横浜国際競技場) 見学
- 2002年 6月 東海環状道路MAGロード工事およびMAGロード館見学
- 2003年 6月 大阪市ごみ処理施設「西淀工場」見学
- 2004年 6月 京極発電所見学, ニセコ町長逢坂誠二氏講演会
- 2005年 6月 「女性の坑内労働の禁止規定の見直し」に関する要望書を (社) 日本建設業団体連合会, (社) 日本経済団体連合会を通じて政府に提出
- 同年 6月 愛・地球博見学, 元万博会場整備本部建設事務所長・林明氏講演会
- 2006年 4月 女子学生就職支援パンフレット「土木技術者を目指すあなたに贈るメッセージ : Civil Engineer への扉」2006年版発行 (東京ウィメンズプラザ民間活動助成事業)
- 同年 6月 代々木シールド作業所見学会, 5テーマによる分科会開催
- 2007年 6月 阪神高速道路京都高速伏見工区トンネル工事現場見学会
- 2008年 6月 一般国道36号 札幌市 札幌駅前地下通路設置工事現場見学会
- 2009年 6月 インタープリターと歩くもりのツアー, 愛知県副知事・稲垣隆司氏講演会
- 2010年 6月 大阪市阿倍野地区第二種市街地再開発事業現場見学会
- 2011年 9月 札幌駅前通地下歩行空間整備事業現場見学会

創立30周年記念 「どぼく未来フォーラム」を開催

土木技術者女性の会
事務局長 龍 尊子



土木技術者女性の会(会長:桑野玲子東京大学准教授)は、土木学会誌の座談会をきっかけに、当時まだ珍しかった女性土木技術者が集まってきた任意団体である。今年創立30周年を迎え、去る6月22日に東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センターとの共催で創立30周年記念イベント「どぼく未来フォーラム」を開催(参加者約220名)した。以下に概要を紹介する。

まず公募していた会のシンボル・ロゴの審査結果発表と表彰を行った。厳正な審査の結果、応募総数463点の中から、南部真有香さんの作品が最優秀賞に選ばれた(図-1)。



図-1 会のシンボル・ロゴ

その後、「誰もが参加できる社会を目指して」と題し、浅川智恵子氏(日本アイ・ビー・エム(株)、IBMフェロー)が基調講演を行った。浅川氏は、自身が開発した音声WEBブラウザなどを紹介し、障がい者がIT技術へアクセスすることがアクセシビリティの向上につながっていると講演した。続いて、桑野会長が司会を務め、浅川氏、山本卓朗氏(第99代土木学会会長、鉄建建設(株)特別顧問)、木村亮氏(京都大学教授、NPO法人道普請理事長)をパネリストに迎え、「いのちを守る土木の未来」をテーマにパネルディスカッションを行った。

話題提供の初めに、アフガニスタンで水路建設に携わった日本人医師・中村哲氏からの応援メッセージが紹介された。今は「自然と人間の共存」が最大の課題であり、いのちの尊さを直観し、次世代への大きな力となるよう願っている、と会場への期待が述べられた。

山本氏はバブル経済以降、土木の功罪が顕在化し、土木界と市民との間にズレが生じたと指摘。特に東日本大震災以降、科学技術に対する信頼性が揺らぐ中、社会安全システムの再構築の必要性を訴えた。土木は本来、総合性を有しており、知恵を広げることで未来を開いて欲しいと会場の参加者に呼びかけた。

木村氏は世界13か国で進めているNPO道普請人の活動を紹介します。機械に頼らず住民が自ら土のうによる道路改良をすることで、住民の内発力の発揮やコミュニティ形成を促すことにつながっている、と話した。

桑野会長からは、創立1983年当時約30名だった会員が現在は約180名となり、多種多様な人材こそが当会の財産になっていると述べた。また、5つの活動目的(図-2)のうち、当初、目的①②を中心に活動してきたが、最近は社会的な要請もあり、③④⑤についての取組みも積極的に行っており、今後とも継続して取り組んでいきたい、との説明があった。

パネルディスカッションの後半は、参加者も参加して土木の

- ①土木界で働く女性技術者同士の励ましあい。
- ②土木界で働く女性技術者の知識向上。
- ③女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り。
- ④女性土木技術者の社会的評価の向上。
- ⑤土木技術者をめざす女性へのアドバイス。

図-2 会の活動目的



写真-1 参加者も参加した討議

使命および未来について討議した(写真-1)。

最後に、今後の会の展望として、どぼく未来宣言を採択し、桑野会長と会場が一体となって読み上げた(図-3、写真-2)。

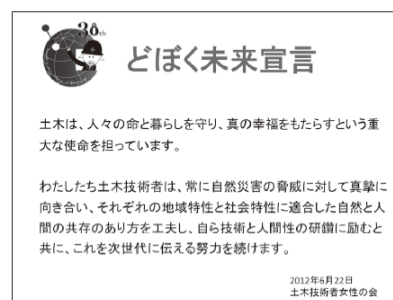


図-3 どぼく未来宣言



写真-2 どぼく未来フォーラム 参加者

創立30周年という節目に、会員のみならず、会員以外の女性(土木)技術者、男性など多くの参加者を得て土木の原点を再確認することができ、大変嬉しく思う。これから会の活動目的および「どぼく未来宣言」に沿った活動を積極的に行ってまいりたいと思う次第である。

謝辞:開催にあたり、ご支援ご協力をいただいた関係各位にこの場を借りて御礼申し上げます。

技術士資格がキャリア形成の大きなプラスに

——まず、これまでのキャリアと現在の仕事についてお話しいただけますか。

岩熊——私が大学へ入った当時は、土木工学や環境工学といった選択肢はありませんでしたので、広い分野を学べるということから農芸化学科へ進みました。当時は水質汚染が非常に問題になっており、選択の講義で学んだ公害論が印象に残りました。そこで、卒業生のほとんどが医薬・食品系へ就職する中、環境調査部門を設立したばかりの建設コンサルタント会社、建設技術研究所に入社しました。最初は、化学分析やデータの取りまとめを行う専門職からのスタートでした。環境関連の水質調査では当時マニュアルもまだ整備されていませんでした。米国の文献を訳し、自分たちで実施可能な方法を試し、答えを出していくかありません。当時大きなテーマだったのが、霞ヶ浦の水質汚濁のメカニズムの解明です。水質の汚濁の要因のモデル化を考え、モデル化された要因を検証する仕事の中で、多様な調査や実験、実測方法を工夫し、答えを求めていきました。新しいテーマであり、自分で考え、試すという経験ができたことは幸運なことでした。

私自身は、女性であっても仕事をずっと続けることは当たり前と思っていました。28歳で環

岩熊 まきさん

IWAKUMA Maki

に伺いました

女性技術者としてキャリアを開拓してこられた立場から、若手の女性土木技術者への期待を伺った。

境計量士の資格を取得しましたが、それにも増して、大きな転機となったのが、32歳のときに取得した技術士の資格でした。当時の勤務先では、技術士を受ける年次になると、受験書類などを取り寄せてくれるのですが、女性の私には配ってもらえないということもありました。しかし、資格を取得して以降、会社でも評価は大きく変わりました。それまでは「あいつは誰？」といった存在だったのが「岩熊か」と言われるようになりました。土木技術者女性の会の30周年の総会でも話し合ったのですが、皆さん女性にとって資格は大事ですよと口を揃えておっしゃっていました。

技術者を目指す若い女性を支援

——日本技術士会男女共同参画推進委員長、NPO法人女性技術士の会理事長としても活躍されていますが、それぞれの活動について教えてくださいいただけますか。

岩熊——日本技術士会では、技術士の知名度向上活動の一環として広報戦略特別委員と同時に、時代の要請で設置された男女共同参画推進委員長を務めています。世間での男女共同参加とは少し異なり、女性技術者のキャリア形成という視点で、技術士の取得を推進する活動を進めています。具体的には、一つは企業に働く女性技術者へのアプローチ。もう一つはJABEE課程

いわくま・まきさん
プロフィール

技術士(応用理学)。特別教育士(工学・技術)。独立行政法人国立高等専門学校機構理事。公益社団法人日本技術士会広報戦略特別委員・男女共同参画推進委員長。特定非営利活動法人女性技術士の会理事長。



に学ぶ女子学生へのアプローチです。女性がキャリアを積んで生きていくためには、資格は男性以上に重要だということで、技術者を目指す若い女性にアピールするとともに、企業の方に対してはその重要性を訴える活動を行っています。

一方、女性技術士の会は、技術士会での出会いをもとに約20年前に設立されたもので、2007年に非特定営利活動法人(NPO)として新たにスタート。幅広い技術分野に対応できる技術者集団という会の特徴、生活者としての知識と経験を活かし、広く一般市民を対象として科学技術発展のための普及啓発事業に取り組んでいます。これまでイベントへの参加、シン

ポジウム開催、技術者を目指す若い女性との懇話会などを重ねてきました。今後もこうした活動をさらに発展させていきたいと考えています。

常に勉強することを忘れてはいけない

——これまでの「自身のキャリアを踏まえ、若手の女性土木技術者への期待をお聞かせください。

岩熊——私は若い時分には、とにかくひたすら働いていました。技術士合格3年半後の36歳で課長になり、その後女子を出産しました。当時

キャリアを積みながら、子どもをつくるということは考えられませんでした。しかし、ある程度キャリアを積んで高輪出産ギリギリで子どもを産むと、キャリアがあるので辞めさせられないというアメリカの記事を読んで、それも一つの方法だと思いました。そのときに助けになったのが、「土木技術者女性の会」など周りの人とのつながりです。皆さんいろいろな創意工夫をされて、タイミングを見計らいつつ、キャリアと結婚、出産、子育てを両立されているのです。そういった仲間の話を聞くことで、自分でもできるのではないかと勇気づけられました。その経験から、後輩を応援できればと、女性技術者のネットワークに積極的に関わり、30年になります。

今は女性が孤軍奮闘しなくても働いていける環境が少しずつ整ってきました。女性技術者がいて当たり前前の社会風土も確実に芽生えています。だからといって、技術者は常に勉強することを忘れてはいけません。そこは会社のためというより、自分自身のために勉強をして欲しいと思います。そして、ここではプロフェッショナルとは何かということを自分なりに考え、意識してください。今はWEBで何でも情報が得られます。だからこそ、その中から自分にプラスになる情報を選ぶ目が必要になります。また、生活習慣が異なる外国の方とでも、相手の立場を理解し、人の話を聞くことができる国際コミュニケーション能力も大切です。ぜひ、若い女性には、社会と向き合い誇りを持って進んでいって欲しいと思います。

2012年8月22日(水)
土木学会役員会議室

聞き手

森田 博之 編集委員
磯打 千稚子 元編集委員

[writer] 駒崎 文男
[photo] 永田 まさお

<その他、メディア掲載情報> ●:本誌掲載

○土木技術者女性の会 創立 30 周年で未来フォーラム、土木学会山本前会長 改良の中に知恵生かすべき
(日刊建設通信新聞 2012.06.26)

○「どぼく未来フォーラム」開く／若い世代に土木の意義伝える／＝創立 30 周年記念行事＝土木技術者女性の会(日刊建設産業新聞 2012.06.25)

○土木技術者女性の会 創立 30 周年記念シンポ／働きやすい環境づくり推進 (日刊建設工業新聞 2012.06.25)

●「どぼじょ(土木系女子)!?」土木学会の土木技術者女性の会が未来フォーラム(Kensetsu ACE Blog、日刊建設通信新聞社 2012.06.26)

http://kensetsunewspickup.blogspot.jp/2012/06/blog-post_26.html

○各人各説／土木技術者女性の会の歩みと役割(桑野会長)(ACE 建設業界 2012 年 6 月号)

http://www.nikkenren.com/publication/ACe/ce/ace1206/pdf/ACe1206_36.pdf

○The Society of Women Civil Engineers marks 30th anniversary, ICUS Newsletter, vol.12 No.1 Apr.to Jun.2012

○土木技術者女性の会/220 人で 30 周年祝う／シンボルロゴ決定(セメント新聞 2012.07.02)

○この女性に聞く／大阪府-牛山育子さん(橋梁新聞第 1143 号 2012.8.1)

●土木技術者女性の会 30 周年、働きやすい環境づくり、地位向上の活動も(桑野会長)(産学官連携ジャーナル 2012 年 8 月号)

http://sangakukan.jp/journal/journal_contents/2012/08/articles/1208-03-1/1208-03-1_article.html

●意見・提言／ダイバーシティ・マネジメント～組織戦略としての取り組みを～(岡村美好さん)(ACE 建設業界 2012 年 8 月号)

<http://www.nikkenren.com/publication/ACe/ce/ace1208/ace.html>

●土木技術者女性の会が創立 30 周年(コンクリートテクノ 9 月号)

●「リケジヨ」人生の方程式 土木業界の先輩に聞く(朝日新聞 2012.9.7)

●創立 30 周年「どぼく未来フォーラム」を開催(土木施工 2012 年 10 月号)

●この人に聞く／東京建設コンサルタント-岩熊まきさん(土木学会誌 2012 年 10 月号)

○土木技術者女性の会関西地区/商店街活性化でイベントで／土木テーマにミニ講演(日刊建設工業新聞 2012.11.13)



継続は力なり —女性土木技術者のための キャリアガイド—

土木学会創立100周年記念出版

- 編集：教育企画・人材育成委員会
ダイバーシティ推進小委員会 編集WG
(WGリーダー：山梨大学・岡村 美好)
 - 協力：土木技術者女性の会、
公益社団法人 地盤工学会
 - 2013年1月発行、A5判、114ページ、並製本
 - 定価：1,890円（本体1,800円＋税）
 - 会員特価：1,710円（税込） ■送料：450円
- ISBN978-4-8106-0748-2

キャリア継続のためのロールモデルと方法をご紹介します。

土木学会、土木技術者女性の会、地盤工学会の3つの団体が協力して、女性土木技術者を応援する本を作りました。多様な分野、経歴、年代の10名の女性土木技術者が語る「仕事における最大の危機」や「アドバイス」、アンケート調査によるQ & A等々により、多様なロールモデルの情報を提供します。また、三団体の会長が、これからの女性技術者を支援する取り組みについて決意を語ります。資料編として、女性土木技術者の歩みや各種のお役立ち情報もまとめました。

本書は、すでにキャリアをスタートさせた女性土木技術者、これから土木技術者になることを目指す女子学生、そして、彼女たちを支援する職場や学校のスタッフの方々を主な対象としています。土木技術者として、女性として、現状に戸惑ったときや将来に不安を感じたときに手に取って下さい。本書には問題解決の参考となる数多くの事例や背中を押してくれるメッセージが詰まっています。学生のキャリア教育、企業・団体での社員研修の副読本としても最適な内容です。

主な内容

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 第1章 土木と女性技術者 | 第4章 女性土木技術者の未来（座談会） |
| 第2章 女性土木技術者たちのキャリア | 資料編 |
| 第3章 キャリア継続のためのQ & A | |

● FAXにて、購入ご予約受付中！●

【お問い合わせ先】

公益社団法人 土木学会 出版事業課
TEL 03-3355-3445 / FAX 03-5379-2769

丸善出版(株)
TEL 03-3512-3256 / FAX 03-3512-3270



送信日:平成 年 月 日

FAX:03-5379-2769
土木学会 図書購入注文書

フリガナ			会員区分 (○印)	・一般(非会員) ・個人・名誉・フェロー・学生会員 ・法人会員・特別会員	会員番号															
申込者 氏名																				
送付先 の住所	〒 ー																			
送付先 機関名											送付先 部署名									
電話番号											請求書に記載 する宛名									

- (1) 土木学会の会員は、会員特価・送料無料で販売いたします（法人会員・特別会員は送料有料）。会員区分および会員番号を必ずご記入の上ご注文ください。
- (2) 商品は、見積書・納品書・請求書を各1通ずつ同封してお送りいたします。
- (3) 商品は、図書が完成次第発送いたします。申し訳ございませんが、納期の指定には対応できませんのでご了承ください。

書 名	定価	会員特価	注文冊数
P748 継続は力なりー女性土木技術者のためのキャリアガイドー	1,890円	1,710円	冊

主な内容

- 第1章 土木と女性技術者
- 第2章 女性土木技術者たちのキャリア
- 第3章 キャリア継続のためのQ&A
- 第4章 女性土木技術者の未来（座談会）
- 資料編

通信欄

<編集後記>

本号は、2012年6月22日(金)、23日(土)に開催した、『どぼく未来フォーラム』第31回総会『創立30周年記念総会』をまとめた冊子となっています。

p.22-30では、みなさまからメッセージをお預かりし、掲載しました。これを提案してくださったのは、編集委員の大植敦子さんです。そして、『♪みんなの声♪』を森瀬真琴さん、『30周年記念総会WGからのメッセージ』を大植さんが、綺麗にまとめてくれました。全体を通して、熱い思いの詰まった「輪」になりました。出席できなかった方にも、ムンムンの熱気が伝わるかな、と思います。執筆してくださったみなさま、編集委員の方々、本当にありがとうございます!!!

年末年始は、みなさまにとって、一番忙しい時期かもしれませんね。そして、家族の大切さを感じられる素敵な季節でもあります。

2013年も、土木技術者女性の会の飛躍の年になるよう、そして、会員一人ひとりにとっても、稔り多い一年となりますようお祈りいたします。

「輪」編集長 箱田裕子

「輪」への投稿・ご意見は編集長 または、地区編集担当へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は、事務局まで、お願いします。

e-mail:webmaster@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員(担当地区)】

箱田裕子(編集長/関東)、大植敦子(関西)

片岡沙都紀(北海道)、森瀬真琴(中部)

【事務局】

〒163-0606 東京都新宿区西新宿 1-25-1

大成建設株式会社 土木営業本部

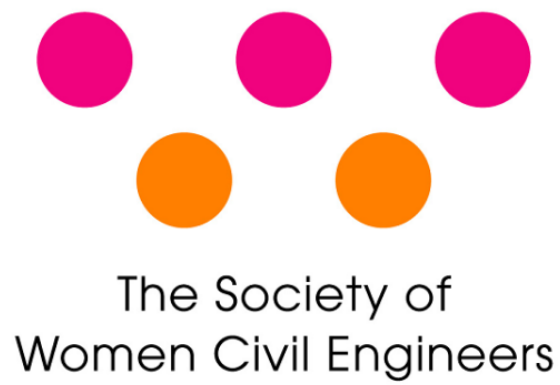
りょう
龍 尊子

2012年度「輪」総会特別号(第53号)

2012年12月25日発行

土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers



土木技術者女性の会
2012 年度「輪」総会特別号(第 53 号)